(様式第10)

帝大病第 22-1094 号

3 日

令和 4年 10月

開設者名 学校法人 帝 京 大 学

理事長 冲永 佳史

帝京大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

厚生労働大臣

殿

住所	〒 173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
氏名	学校法人 帝京大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

帝京大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒 173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1 電話(03)3964 - 1211(代)

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

0	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環 器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標 榜

(注) 上記のいずれかを選択し〇を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科					有		
内科。	と組み合わせた診療科名等						
	1呼吸器内科	2消化器内科	0	3循環器内科	4腎脈	域内科	
0	5脳神経内科	6血液内科		7内分泌内科	8代詞	村内科	
	9感染症内科	10アレルギー疾患[内科または	アレルギー科	11リ	マチ科	
診療実績							

- (注) 1「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に〇印を付けること。
 - 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、 その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

	有					
外科と組み合わせた診療科名						
1呼吸器外科	0	2消化器外科	3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科	0	6心臓血管外科	7内分泌外科	0	8小児外科	
	-					
	1呼吸器外科 5血管外科	1呼吸器外科 〇 5血管外科 〇	1呼吸器外科 〇 2消化器外科 5血管外科 〇 6心臓血管外科	1呼吸器外科 〇 2消化器外科 3乳腺外科 5血管外科 〇 6心臓血管外科 7内分泌外科	組み合わせた診療科名 1呼吸器外科 0 2消化器外科 3乳腺外科 5血管外科 0 6心臓血管外科 7内分泌外科 0	

(注) 1「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。 2「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管 外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を 記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして 差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

0	1精神科	0	2小児科	0	3整形外科	0	4脳神経外科
0	5皮膚科	0	6泌尿器科	0	7産婦人科		8産科
	9婦人科	0	10眼科	0	11耳鼻咽喉科	0	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	0	15麻酔科	0	16救急科

(注) 標榜している診療科名に〇印を付けること。

(4)歯科

歯科						有	
歯科と	歯科と組み合わせた診療科名						
〇 1小児歯科 〇 2矯正歯科 〇 3圏科口腔外							
歯科の	歯科の診療体制						

(注) 1「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に〇印を付けること。 2「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)~(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	緩和ケア内科	2	腫瘍内科	3	形成外科	4	病理診断科	5	リハビリテーション科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	
47				1031	1078	(単位:床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	465	27	466.1
歯科医師	9	4	9.05
薬剤師	78	1	78.5
保健師			
助産師	50	1	50.6
看護師	1104	9	1110.8
准看護師			
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	9	1	9.3

職種	員数
看護補助者	5
理学療法士	28
作業療法士	9
視能訓練士	10
義肢装具士	
臨床工学士	21
栄養士	
歯科技工士	
診療放射線技師	52
- 小 二 粉ナ = 1 .1	-7-1

	職種			
診療ニ	Cックス線技師			
	臨床検査技師	81		
協床 検査	衛生検査技師			
	その他			
あん摩	あん摩マッサージ指圧師			
医療社	医療社会事業従事者			
その	その他の技術員			
į	事務職員			
そ	の他の職員	3		

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 - 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 - 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	57.4	眼科専門医	11.3
外科専門医	42.2	耳鼻咽喉科専門医	12.4
精神科専門医	8.3	放射線科専門医	15.8
小児科専門医	20.8	脳神経外科専門医	11.2
皮膚科専門医	9.4	整形外科専門医	34.1
泌尿器科専門医	7.2	麻酔科専門医	21.7
産婦人科専門医	10.8	救急科専門医	28.3
		合計	290.9

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 - 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。
- 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

 管理者名
 (坂本 哲也)
 任命年月日 平成 28 年 4 月 1日

 別紙 1 参照

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等	以外	歯科等	÷	合計		
1日当たり平均入院患者数	697.6	人	2.5	人	695.1	人	
1日当たり平均外来患者数	1448.3	人	40.6	人	1407.7	人	
1日当たり平均調剤数			1575.1			剤	
必要医師数			157.2			人	
必要歯科医師数	1						
必要薬剤師数			20			人	
必要(准)看護師数			400			人	

- (注) 1「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 - 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 - 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 - 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 - 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造			į	設備概要	<u> </u>		
	1,504.53		病尿	末数	60	床	νĽ	で電計	有
集中治療室	1,504.53		人工呼	吸装置	1	盲	心細重	加除去装置	有
	m ^²		その他の救	急蘇生装置	1 1	į	ペース	スメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場	詩合] 床 面	面積	178.86	m¹	病尿	卡数	12	床
- 無困柄主守	[移動式の場	合] 台	数	2	台				
医薬品情報	[専用室の場	[合] 床面	面積			30.81			m¹
管理室	[共用室の場合] 共用する室名								
化学検査室	19.29 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		低温	恒温器,中	中実験台	・,キューリーメータ	
細菌検査室	140.6 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全	自動細菌	検査装	置,生物顕很	微鏡,安全キャレ	ごネット
病理検査室	264.05 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		ミクロト	-ム,自動	固定包埋物	表置,顕微鏡	
病理解剖室	74.58 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		解剖台	台,臓器攝	影台,臓器	固定水洗槽	
研究室	3,067.52 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			ト ラ	フトチャンバー 等	等	·
講義室	488.9 m ²	鉄筋コンクリート	室数	13	室	収容	定員	260	人
図書室	3,020.73 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2	室	蔵書	書数	235000	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 - 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹力	介率	95.1	%	逆紹	介率	69.4	%
	A:紹介:	患者の数				19,268	人
算出	B:他の	病院又は診療所に紹介した	患者の数			17,694	人
根拠	C:救急	用自動車によって搬入される	た患者の数			4,996	人
	D:初診	の患者の数				25,509	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 - 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 - 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (Oを付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
寺尾 壽夫	東京都医師国保組合議 員 脳神経内科医師	0	・医療に係る安全管理 に関する識見を有する 者 ・脳神経内科医師として 医療に造詣が深いため	無	1
秦 奈峰子	太田·佐藤法律事務所 弁護士·医師		・医療に係る安全管理 及び法律に関する識見 を有する者 ・医師と弁護士の資格 を持ち医療と法律双方 を理解されているため	無	1
橋本 悳正	当院の患者代表		・医療を受ける者その 他の医療従事者以外の 者 ・当院に通院歴のある 患者を代表して	無	2
川村 雅文	帝京大学医学部長		・当院での臨床経験がある中立的な評価ができる立場にある者・医学部を統括する者として	有	3

- (注)
- 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

10 监查支票五00支票100支票000元至由00五亿0000	
委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページに公表	

管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年
管理者														0	0	0	0	0	0	0
管理担当副院長												0	0							
管理担当副院長補佐								0	0	0	0									
安全管理部			長略属	副部長	副部長	副部長	副部長	部長	是暗	部長	录略	副部長	副部長							
医療事故発生防止委員会	副委員長																			
安全管理委員会		副委員長	委員長	委員長	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員									
安全管理担当者会議		副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長													
リスクマネージャー会議								副委員長	委員長	委員長	委員長	副委員長	副委員長							
安全管理改善委員会						副委員長	副委員長													

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
無し	
先進医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

- (注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。
- (注)2「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
別紙 2 参照	
先進医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(注)2「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

⁽注)1「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

3 その他の高度の医療

医療技術名	Tranjsugular Intrapepatic Portosystemic Shunt (TIPS)	取扱患者数	5
	、内視鏡治療やIVRでの治療が不応の食道胃静脈瘤に対して、下大静脈と門 いことから、国内で技術的にも、実施可能施設が乏しく帝京大学で施行した。		
医療技術名	肝内リンパ管塞栓術	取扱患者数	1
治療成績は十分にれまでは、外	表とするリンパ漏に対して、これまで直視下に胸管結紮を行ってきたが、血液と 分なものではない。 我々は、リンパ路を造影剤で描出し直接胸管を穿刺し、経 傷性乳糜胸水や、特発性乳糜胸水症例に対して実施していたが、今年度は	皮的に塞栓術を 新たに乳糜心嚢?	行った。
医療技術名	陽子線照射療法	取扱患者数	0
当該医療技術の 切除可能肝細胞療として登録。	の概要 抱癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化比較同時対照試験に	て、陽子線照射線	療法を高度医
医療技術名	ダビンチ支援下膵尾側切除術	取扱患者数	10
当該医療技術の以前より腹腔鏡	の概要 で下膵尾側切除を施行していたが、その技術を応用してダビンチを利用して膵	*尾側切除を施行	する。
医療技術名	ダビンチ支援下ヘルニア根治術	取扱患者数	10
当該医療技術の	り の概要		
	プローチで施行していたヘルニア根治術を、膵尾側切除で培ったダビンチ支 ヘルニア根治術を施行する。	援手術の技術を応	応用して、ダビ
医療技術名	胃癌腹膜播種に対する腹腔内化学療法	取扱患者数	6
	の概要 に対しては経口・静脈投与による全身化学療法が標準的であるが、腹腔内に D効果があることが知られている。先進医療としての新規登録は終了しているが		
医療技術名	出生前診断	取扱患者数	150
当該医療技術のNIPT(母体血脈	の概要 台児染色体検査)に対する遺伝カウンセリング、検査実施(自費診療)		
医療技術名	遺伝カウンセリング(癌)	取扱患者数	20
当該医療技術	の概要		
悪性腫瘍患者	こ対するがん遺伝子パネル検査の実施、遺伝学的検査に対する遺伝カウント	セリング実施	
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術	の概要		
(注) 1 当該库	- 療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を	ション・カン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン	
	こかがススローのフィートロルマップとがはヒエリロリューの ロッカーじょうのかいしょ 川 十万 ツ 大嶋で	ロレノく プイン (二 ()	

- (注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。
- (注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	182

4 指定難病についての診療

	ついての診療 <u>疾</u> 患名	患者数	疾 患 名	患者数
1	疾 患 名 別紙 3 参照	56		
2		57		
3		58		
4		59		
5		60		
6		61		
7		62		
8		63		
9		64		
10		65		
11		66		
12		67		
13		68		
14		69		
15		70		
16 17		71		
17		72		
18 19		73		
19		74		
20 21 22 23		75		
21		76		
22		77		
23		78		
24 25 26 27 28 29 30 31 32 33		79		
25		80		
26		81		
2/		82		
28		83		
29		84		
30		85		
31		86		
32		87		
33		88		
34 35		89		
30		90		
36 37		91 92		
3/		93		
30		94		
38 39 40		95		
41		96		
41 42		97		
42		98		
44		99		
45		100		
46		101		
46 47 48		102		
48		102		
40		103		
49 50 51 52		105		
51		100		
51 52		106 107		
52		107		
53 54 55		108		
34 I		109 110		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	
合計患者数(人)	0

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 別紙 4 参照	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 別紙 5 参照	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
	•
•	•
•	•
	•
•	•
	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
無し	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•
•	•

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 (1) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。		
一	2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門に	こまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催 した症例検討会の開催頻度	臨床各科とのカンファレンス、CancerBoard及び研修医向けCPCを例年、各1回開催していますが、前年度同様コロナ禍だったため、CancerBoardは休会、カンファレンスのうち骨軟部カンファのみ段階的に再開。なお、研修医向けCPCは例年通り月1で開催(8月を除く)。		
割検の状況	剖検症例数(例)	20	
ロリ 1英 ジン 4人 7年	剖検率(%)	2.57	

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

⁽注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

⁽注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

2021年4月1日~2022年3月31日 〇1承認を受けている先進医療(第2)

→なし

○2承認を受けている先進医療(第3)

先進医療の種類	取扱患者数(人)
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与併用療法肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内 投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	0
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) [外科的治療を実施する施設]	0
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺がん(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期 又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限 る。)	0

4 指定難病についての診療

通番号	疾病名	患者 実数
	性筋委縮症	6
	性側索硬化症	36
	筋萎縮症	2
	核上性麻痺	10
5 パーキ	ンソン病	98
6 大脳皮	質基底核変性症	5
7 シャル 8 重症筋	コー・マリー・トゥース病	120
	無力症 硬化症/視神経脊髄炎	128 76
	<u>返し近く 祝刊性 目 脚炎</u> 症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	47
11 封入体		3
12 多系統	萎縮症	11
	脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	26
	デーム病	3
15 副腎白	質ジストロフィー	1
	ドリア病	8
17 もやも・		30
	1関連脊髄症	2 8
19 全身性	アミロイドーシス	8
	ミオパチー	1
21 神経線		11
22 天疱瘡 23 膿疱性	乾癖(汎発型)	31
	記録(M.先至) -ヴンス・ジョンソン症候群	1
25 高安動		9
	性動脈炎	9
	多発動脈炎	9
	的多発血管炎	35
29 多発血	管炎性肉芽腫症	17
30 好酸球	性多発血管炎性肉芽腫症	34
31 悪性関	節リウマチ	9
32 バージ		2
33 原発性	抗リン脂質抗体症候群	4
	エリテマトーデス	236
	炎/多発性筋炎	83
	強皮症	54 23
38 シェーク	結合組織病 ブレン症候群唱	38
39 成人ス	チル病	22
	多発軟骨炎	4
41 ベーチ		169
	拡張型心筋症	24
43 肥大型		4
44 再生不	良性貧血	24
	疫性溶血性貧血	4
	夜間へモグロビン尿症	4
	血小板減少性紫斑病	54
	免疫不全症候群	6
49 IgA 腎/	<u>E</u> 惠 少 图	21
50 多発性 51 黄色靭	襄咫肖 帯骨化症	20
	帝官化症 帯骨化症	27
53 広範脊	帝有化症 柱管狭窄症	3
54 特発性	大腿骨頭壊死症	24
	性ADH分泌異常症	12
	性PRL分泌冗進症	4
57 クッシン		4

通番号	疾病名	患者 実数
58	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
59	下垂体前葉機能低下症	31
60	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
61	サルコイドーシス	40
62	特発性間質性肺炎	33
63	肺動脈性肺高血圧症	3
64	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3
65	リンパ脈管筋腫症	1
66	網膜色素変性症	37
67	バッド・キアリ症候群	3 2
68	特発性門脈圧元進症	2
69	原発性胆汁性肝硬変	44
70	原発性硬化性胆管炎	11
71	自己免疫性肝炎	30
72	クローン病	115
73	潰瘍性大腸炎	215
74	好酸球性消化管疾患	
75	若年性特発性関節炎	5 3 2 14
76	先天性ミオパチー	2
77	筋ジストロフィー	14
78	アイザックス症候群	1
79	前頭側頭葉変性症	1
80	限局性皮質異形成	1
81	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1
82	結節性硬化症	2
83	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	20
84	マルファン症候群	
85	ウィルソン病	3
86	プフダー・ウィリ症候群	1
87	急速進行性糸球体賢炎	4
88	抗糸球体基底膜腎炎	1
89	一次性ネフローゼ症候群	59
90	一次性膜性增殖性糸球体腎炎	1
91	紫斑病性腎炎	1
92	間質性勝脱炎(ハンナ型)	
93	オスラー病	3
94	タンジール病	3
95	脳腱黄色腫症	1
96	脂肪萎縮症	1
97	家族性地中海熱	<u> </u>
98	強直性脊椎炎	l a
99	リンパ管腫症/ゴーハム病	8
100	クリッペル・トレノネ・ウェーバー症候群	1
100	後天性赤芽球癆	
101	IgG 4関連疾患	10
	好酸球性副鼻腔炎	30
103	大天異常症候群	1
104	元大乗吊延候群 特発性多中心性キャッスルマン病	1
105	付先にダヤ心はイヤッヘルドノ病	<u> </u>
	佐忠粉	105
	疾患数	105

疾患数	105
合計患者数(人)	2,324

●基本診療料の施設基準

- 特定機能病院入院基本料(一般:7対1、精神: 13対1)
- · 臨床研修病院入院診療加算
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- · 妊産婦緊急搬送入院加算
- ·診療録管理体制加算 1
- ・医師事務作業補助体制加算 2(50 対 1)
- ・急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者5割未満)
- ·看護職員夜間配置加算(12 対 1 配置加算 2)
- 療養環境加算
- · 重症者等療養環境特別加算
- ·無菌治療室管理加算 1 · 2
- ・緩和ケア診療加算
- ·精神科身体合併症管理加算
- ・精神科リエゾンチーム加算
- がん診療連携拠点病院加算
- ・栄養サポートチーム加算
- 医療安全対策加算1
- · 感染対策向上加算 1
- ・患者サポート体制充実加算
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・ハイリスク分娩管理加算
- · 後発医薬品使用体制加算 2
- · 病棟薬剤業務実施加算1 · 2
- ・データ提出加算2のイ
- · 入退院支援加算 1
- 精神疾患診療体制加算
- ・精神科急性期医師配置加算2のイ
- 地域医療体制確保加算
- · 救命救急入院料 1 · 4
- ·特定集中治療室管理料3 · 4
- · 総合周産期特定集中治療室管理料
- · 新生児治療回復室入院医療管理料
- · 小児入院医療管理料 1
- · 地域歯科診療支援病院歯科初診料
- · 歯科外来診療環境体制加算 2

●特掲診療料の施設基準

- ・外来栄養食事指導料の注2、注3に規定する基準
- ・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行期加算)
- ・心臓ペースメーカー指導管理料(注5に規定する遠隔モニタリング加算)
- 高度難聴指導管理料
- 慢性維持透析患者外来医学管理料の腎代替療法実績加算
- 糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ
- ・ 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
- 糖尿病诱析予防指導管理料
- •婦人科特定疾患治療管理料
- 腎代替療法指導管理料
- 一般不妊治療管理料
- 生殖補助医療管理料1
- ·二次性骨折予防継続管理料1 · 3
- 下肢創傷処置管理料
- ・院内トリアージ実施料
- 外来放射線照射診療料
- · 外来腫瘍化学療法診療料 1
- 連携充実加算
- ・ニコチン依存症管理料
- ・がん治療連携計画策定料
- ・がん治療連携管理料1
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- · 医療機器安全管理料 1 · 2 · (歯科)
- 歯科治療時医療管理料
- ・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料 遠隔モニタリング加算
- ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
- ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
- 造血器腫瘍遺伝子検査
- 遺伝学的検査
- · 骨髓微小残存病変量測定
- ・BRCA1/2遺伝子検査
- がんゲノムプロファイルング検査
- 先天性代謝異常症検査

- ・HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- ・検体検査管理加算 (I)・(IV)
- 国際標準検査管理加算
- ・遺伝カウンセリング加算
- ・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- 植込型心電図検査
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・胎児心エコー法
- ヘッドアップティルト試験
- 単繊維筋電図
- · 脳波検査判断料 1
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- 黄斑局所網膜電図及び全視野精密網膜電図
- ・ロービジョン検査判断料
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- ・センチネルリンパ節生検(片側)
- · 画像診断管理加算1 · 2
- ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- ・CT 撮影及び MRI 撮影
- · 冠動脈 CT 撮影加算
- ・血流予備量比コンピューター断層撮影
- · 外傷全身 CT 加算
- ·大腸 CT 撮影加算
- ・心臓 MRI 撮影加算
- · 乳房 MRI 撮影加算
- · 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- · 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
- ・廃用症候群リハビリテーション料(I)
- ・運動器リハビリテーション料 (I)
- ・呼吸器リハビリテーション料(I)
- ・ 摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
- がん患者リハビリテーション料
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- ・通院・在宅精神療法の療養生活継続支援加算
- ・精神科ショート・ケア「大規模なもの」

- 精神科デイ・ケア「大規模なもの」
- ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
- 医療保護入院等診療料
- ・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
- 硬膜外自家血注入
- ・エタノールの局所注入(甲状腺)
- 人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
- ・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
- 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- ・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対する LDL アフェレシス療法
- ・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
- ・一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素呼吸不全に対して実施するものに限る。)
- 口腔粘膜処置
- ・CAD/CAM 冠及び CAD/CAM インレー
- ・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
- · 皮膚移植術 (死体)
- ・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
- ・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
- ・緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
- ・ 骨移植術(軟骨移植術含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
- ・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
- · 椎間板内酵素注入療法
- ・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
- ・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換 術
- 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
- 角結膜悪性腫瘍切除手術
- · 角膜移植術(内皮移植加算)
- 羊膜移植術
- ・緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))
- ・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
- ·緑内障手術(濾過胞再建術(needle 法))
- ・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
- 網膜再建術
- · 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
- ・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型 骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
- 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術

- ・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節 加算2を算定する場合に限る。)
- ・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳 房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
- ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
- ・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・肺悪性腫瘍手術 (壁側・臓側胸膜全切除 (横隔膜、心膜合併切除を伴うもの) に限る。)
- ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。) (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・食道縫合術 (穿孔、損傷) (内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖 術、胃瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、結腸瘻閉 鎖術 (内視鏡によるもの)、腎 (腎盂) 腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉 鎖術 (内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、腟腸瘻閉鎖術 (内 視鏡によるもの)
- 経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
- ・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
- ・経皮的僧帽弁クリップ術
- ・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)、(経カテーテル的手術によるもの)
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、ペースメーカー移植術及びペース メーカー交換術 (リードレスペースメーカー)
- ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- ・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術 (経静脈電極の場合)
- ・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
- ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
- ・大動脈バルーンパンピング法(IABP 法)
- ・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
- · 補助人工心臟
- 経皮的大動脈遮断術
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)

- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
- ・ダメージコントロール手術
- · 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
- ・腹膜鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併設するもの)
- ・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
- ・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び 腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
- ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- ・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
- ・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
- 体外衝擊波胆石破砕術
- ・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)、(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
- ・体外衝撃波膵石破砕術(一連につき)
- 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- · 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- · 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・内視鏡的小腸ポリープ切除術
- ・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手 術用支援機器を用いる場合)
- · 体外衝擊波腎 · 尿管結石破砕術
- ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
- ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
- ・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 生体腎移植術
- ・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術、腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を 用いる場合)
- · 人工尿道括約筋植込 · 置換術
- ・膀胱頸部形成術 (膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術 (鼠径部切開によるもの)
- 精巢内精子採取術
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
- ・腹腔鏡下腟式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
- · 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術

- ・胎児胸腔・羊水腔シャント術 (一連につき)
- · 体外式膜型人工肺管理料
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群 患者に対する乳房切除術に限る。)
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群 患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
- ・輸血管理料 I 、輸血適正使用加算、貯血式自己血輸血管理体制加算
- · 自己生体組織接着剤作成術
- ・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)及び同種クリオプレシピテート作製術
- · 人工肛門 · 人工膀胱造設術前処置加算
- · 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 歯周組織再生誘導手術
- · 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・レーザー機器加算
- ・麻酔管理料 (I)・(Ⅱ)
- 周術期薬剤管理加算
- · 放射線治療専任加算
- · 外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- 1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)
- ・強度変調放射線治療 (IMRT)
- · 画像誘導放射線治療加算
- · 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(体外照射呼吸性移動対策加算・定位放射線治療・その他のもの)
- · 画像誘導密封小線源治療加算
- ・保険医療機関間の連携による病理診断
- · 病理診断管理加算 2
- · 悪性腫瘍病理組織標本加算
- ·口腔病理診断管理加算2
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所 属 部 門	金額	補助元又は委託 元
別紙 6 参照				補
別紙 0 参照				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入するこ
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雜誌名• 出版年月等	論文種別
1		別紙 7 参照			Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
~					
70					
~					

計 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、 七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
 - 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌 に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等 と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先 が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能 病院に所属している場合に限る。)
 - 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
 - 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
 - 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin press の掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
\sim					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 - 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助	元又は委託元
気分障害におけるストレス要因を規定する栄養・腸内環境の解明	功刀浩	精神神経科 学講座	¥1,000,000	補 委	先進医薬研究 振興財団
うつ病のグリア抗うつ薬受容体(LPAI)を基盤とした創薬・バイオマーカー研究	功刀浩	精神神経科 学講座	¥100,000	補 委	日本学術振興 会
[1-13C]Trpと[1-13C]5-HTPの合成とうつ病の客観的診断法の開発	功刀浩	精神神経科 学講座	¥60,000	補 委	日本学術振興 会
精神疾患病態における神経ペプチドの役割に 関する検討	秀瀬真輔	精神神経科 学講座	¥1,300,000	補 委	文部省科学研 究費助成事業
セルフモニタリングと援助希求に着目した、こころの健康教育プログラム作成と効果検証	金田渉	精神神経科 学講座	¥0	補 委	文部省科学研 究費助成事業
ミトコンドリア病、レット症候群の調査研究	三牧正和	小児科学講 座	¥500,000	補 · 委	厚生労働省
ミトコンドリア病新規治療法の開発:イノシンとフェブキソスタットによるATP増強	三牧正和	小児科学講 座	¥1,690,000	補 委	文部省科学研 究費助成事業
大規模災害時におけるアレルギー疾患患者 の問題の把握とその解決に向けた研究	小林茂俊	小児科学講 座	¥10,010,000	補 委	厚生労働省
妊婦・授乳婦における医薬品の安全性に関する情報提供の在り方の研究	伊藤直樹	小児科学講 座	¥200,000	補 委	厚生労働省
N-S結合及びN-N結合における立体科学の解明と機能性分子創出への応用	佐藤恭弘	小児科学講 座	¥260,000	補 委	文部省科学研 究費助成事業
有機銅錯体-循環型キレート剤混合ミセルを 用いたMenkes病治療薬の展開	佐藤恭弘	小児科学講 座	¥390,000	補 委	文部省科学研 究費助成事業
小児特発性ネフローゼ症候群の病態解明:発症機序における自己抗体の役割	高橋和浩	小児科学講 座	¥0	補 委	文部省科学研 究費助成事業
骨細胞におけるSOCS3抑制シグナルを中心とした皮質骨と骨髄の相互関係の解明	磯島豪	小児科学講 座	¥1,430,000	補 委	文部省科学研 究費助成事業
本邦における院外心停止患者に対するECPRに関する多施設後ろ向き観察研究	坂本哲也	救急科学講 座	¥100,000	補 委	文部科学省
脳卒中のLearning Healthcare Systemに関する研究	坂本哲也	救急科学講 座	¥50,000	補 委	文部科学省
市民によるAED等の一次救命処置のさらなる 普及と検証体制構築の促進及び二次救命処 置の適切な普及に向けた研究	坂本哲也	救急科学講 座	¥5,499,000	補 委	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
救急救命士が行う業務の質の向上に資する 研究	坂本哲也	救急科学講 座	¥3,200,000	(神) 厚生労働省 ・ 委
地域医療構想を見据えた救急医療提供体制 の構築に関する研究	坂本哲也	救急科学講 座	¥250,000	(神) 厚生労働省 ・ 委
本邦における重症熱中症の実態把握に 向けた研究	三宅康史	救急科学講 座	¥8,999,000	(神) 厚生労働省 ・ 委
脳死下、心停止後の臓器・組織提供に おける効率的な連携体制の構築に資す る研究	三宅康史	救急科学講 座	¥1,500,000	(神) 厚生労働省 ・ ・ 委
『新しい生活様式』に即した環境因子 の変化に伴う熱中症発症因子の検討	神田潤	救急科学講 座	¥1,000,000	(神) 厚生労働省 ・ ・ 委
本邦における重症熱中症の実態把握に 向けた研究	神田潤	救急科学講 座	¥0	(神) 厚生労働省 ・ 委
エビデンスに基づく熱中症の診療指針の確立 に向けての疫学調査と分析	神田潤	救急医学講 座	¥1,040,000	文部省科学研究費助成事業 委
国土強靭化計画をふまえ、地域の実情 に応じた災害医療提供体制に関する研 究	森村尚登	救急科学講 座	¥2,500,000	傳 厚生労働省 委
大規模イベント時の健康機器管理対応に資す る研究	森村尚登	救急科学講 座	¥1,400,000	(種) 厚生労働省 委
市民によるAED等の一次救命処置のさらなる 普及と検証体制構築の促進及び二次救命処 置の適切な普及に向けた研究	森村尚登	救急科学講 座	¥0	傳 厚生労働省 委
心臓大血管救急におけるICTを用いた革新的 医療情報連携方法の普及と広域救急医療体 制確立に資する研究	森村尚登	救急科学講 座	¥0	傳 厚生労働省 委
交通事故の人体傷害の発生メカニズムの解 明と被害軽減対策に関する調査研究	角山泰一朗	救急科学講 座	¥1,300,000	補 (公財)交通事 故総合分析セ ンター
患者個別バーチャルリアリティと拡張現実を複 合した腹部外傷外科シミュレーター構築	伊藤香	救急医学講 座	¥520,000	全球 (本)
帚人科がん患者体液中クラスター細胞のプロ ファイリング作成と転移メカニズムの解明	長阪一憲	産婦人科学 講座	¥4,160,000	利学研究費助 成事業 委
単一細胞解析による婦人科がん幹細胞ニッチ の解明と新規治療法の開発	長阪一憲	産婦人科学 講座	¥1,430,000	文部科学省科 学研究費補助 委 金
'Deep Safety"(真の医療安全)実現に向けた 去政策:医療安全における「法との断絶」の克 服を目指す比較研究	木戸浩一郎	産婦人科学 講座	¥250,000	(補) 厚生労働省 ・ 委
治動計で計測された胎児のgross movementと 児の長期発達予後に関する研究	八木慶太	産婦人科学 講座	¥1,000,000	一般社団法人 関東連合産科 委 婦人科学会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
DDSとしてナノミセルを用いたHPV癌遺伝子を 標的とした子宮頸癌治療薬開発	西田晴香	産婦人科学 講座	¥650,000	委金
大気中粒子による眼アレルギー疾患の疫学 調査と実験的手法による原因究明と治療法開 発	溝田淳	眼科学講座	¥500,000	委
大気中粒子による眼アレルギー疾患の疫学 調査と実験的手法による原因究明と治療法開 発	三村達哉	眼科学講座	¥5,980,000	委金
新型コロナウィルス感染症パンデミックの手術 生産性変化に与える影響	中田善規	麻酔科学講 座	¥1,010,000	公益財団法人ファイ ザーヘルスリサーチ 振興財団 第30回 委 (2021年度)研究助成
横断的課題に広く対応し医療ICT基盤上で活 用される診療ガイドラインの作成・編集・導入 を推進するための研究	澤智博	麻酔科学講座	¥5,400,000	厚生労働科学 研究費補助金 委
水溶性・脂溶水に着目したスタチン系薬剤の 細胞腫毎での細胞障害作用の検討	張京浩	麻酔科学講 座	¥0	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
術中心停止に対する迅速かつ安全な心肺蘇 生法の確立 : 実地シミュレーションによる検討	小西康貴	麻酔科学講 座	¥1,170,000	全球 (本)
神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・ 重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOL の検証	園生雅弘	脳神経内科 学講座	¥400,000	厚生労働省 委
筋萎縮性側索硬化症の早期診断における感 度特異度の高い電気生理学的診断基準の作 成	園生雅弘	脳神経内科 学講座	¥1,690,000	全 文部科学省科 学研究費補助 委 金
欠世代遺伝子編集システムを用いたFCMDIC 対するスプライシングスイッチ療法の確立	斉藤史明	脳神経内科 学講座	¥500,000	文部科学省 委
先進的ゲノム編集技術を用いた難治性神経 筋疾患に対する治療戦略	斉藤史明	脳神経内科 学講座	¥1,300,000	全 文部科学省科 学研究費補助 委 金
手指動作における時空間ダイナミクスの特徴 曲出と臨床応用	小林俊輔	脳神経内科 学講座	¥3,770,000	全球型 (全球型) (
手指動作における時空間ダイナミクスの特徴 曲出と臨床応用	小林俊輔	脳神経内科 学講座	¥2,100,000	全球型 (全球型) (
手指動作における時空間ダイナミクスの特徴 曲出と臨床応用	小林俊輔	脳神経内科 学講座	¥2,900,000	文部科学省 委
カルシウムホメオスタシスの制御に基づく筋ジ ストロフィーに対する新たな治療法の開発	松村喜一郎	脳神経内科 学講座	¥1,430,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
学会連携を通じた気象癌の適切な医療の向 上と次世代を担う希少がん領域の人材育成に 資する研究	橋口陽二郎	外科学講座	¥300,000	(補) 文部科学省 委
大腸癌の腸内細菌叢メタゲノム解析とリキッドバイ オプシーによる癌個別化診断	橋口陽二郎	外科学講座	¥0	(補) 文部科学省科

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自律再生軟骨による気管支断端の創傷治癒 システムの開発	横手芙美	外科学講座	¥1,300,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
新規デバイスによる肺癌患者の血液中循環 腫瘍細胞の同定	坂尾幸則	外科学講座	¥0	委金
革新的新規デバイスによる肺癌患者の血液 中循環腫瘍細胞の同定	坂尾幸則	外科学講座	¥1,170,000	委 金
免疫チェックポイント阻害薬併用凍結療法の 腫瘍免疫変調効果の検討	山内良兼	外科学講座	¥0	委金
革新的新規デバイスによる肺癌患者の血液 中循環腫瘍細胞の同定	出嶋仁	外科学講座	¥200,000	委
乳癌術前薬物療法における血漿エクソソーム 由来microRNAの有用性の検討	松本暁子	外科学講座	¥0	委金
地域医療構想の実現のためのNCDの利活用 こついての政策研究	神野浩光	外科学講座	¥0	委
全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基 づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報 学供の在り方に関する研究	神野浩光	外科学講座	¥0	文部科学省 委
メタボローム解析を用いた乳癌化学療法の効果予測法の確立	神野浩光	外科学講座	¥0	文部科学省科学研究費補助 委 金
メタボローム解析を用いた cdk 4/6阻害剤の 効果予測法の確立	神野浩光	外科学講座	¥1,300,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
胃癌の血漿microRNAとtumor−free DNAによ る癌早期診断法	福島亮治	外科学講座	¥0	(种) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
革新的新規デバイスによる肺癌患者の血液 中循環腫瘍細胞の同定	齋藤雄一	外科学講座	¥200,000	文部科学省 委
原発性脂質異常症に関する調査研究	塚本和久	内科学講座	¥200,000	運動 厚生労働省 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要
ベーチェット病に関する調査研究	菊地弘敏	内科学講座	¥250,000	厚生労働省 委
誰治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に 資する研究	河野肇	内科学講座	¥666,000	厚生労働省 委
ニドロキシクロロキン新規作用機序から解明 するSLEにおける自然炎症の関与	河野肇	内科学講座	¥1,560,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑俊成	内科学講座	¥400,000	(補) 厚生労働省 ・ 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん検診における'Shared Decision Making' 推進と利益不利益バランスに基づく受診意思 決定支援ツール開発のための研究	渡邊清高	内科学講座	¥500,000	(神) 厚生労働省 ・ ・ ・
がん診療連携拠点病院等の施設間の支持療 法の均てん化の実現に資する研究	渡邊清高	内科学講座	¥500,000	厚生労働省 委
高齢者診療ガイドライン策定とその普及のた めの研究	渡邊清高	内科学講座	¥0	厚生労働省 委
弁膜症、狭心症等の循環器病診療の標準化・ 適正化に資する研究	渡邊雄介	内科学講座	¥0	厚生労働省 委
盾環動態シミュレーターによる経皮的僧帽弁 フリップ術の効果予測	渡邊雄介	内科学講座 (循環器)	¥1,560,000	文部科学省科 学研究費補助 委 金
糖・脂質・アミノ酸の栄養素の臓器間代謝調 節機構の解明と応用法の探索	宇野健司	内科学講座	¥4,160,000	文部科学省科 学研究費補助 委 金
エクソソームを用いた2型糖尿病の病態・治療 効果予測に有用な新規マーカーの探索	江戸直樹	内科学講座	¥1,170,000	文部科学省科学研究費補助 委 金
腎尿細管ナトリウム輸送体が及ぼす糖尿病と 高血圧の相互増悪機序の解明	山崎修	内科学講座	¥1,950,000	文部科学省科学研究費補助 委 金
翻訳後修飾による新規膜輸送体制御系を基 軸とした腎疾患の基盤病態解明と応用の探求	柴田茂	内科学講座	¥2,470,000	文部科学省科学研究費補助 委 金
HIV感染者におけるサルコペニアの成因とその機序の解明	若林義賢	内科学講座	¥1,040,000	文部科学省科 学研究費補助 委 金
がん診療連携拠点病院等の施設間の支持療 まの均てん化の実現に資する研究	秋山暢	内科学講座	¥0	厚生労働省 委
電子カルテ設計構想の見直し: 臨床的利便性 ヒデータ収集効率性の両立をめざして	松本聡子	内科学講座	¥1,430,000	文部科学省科 学研究費補助 委 金
沛線維化におけるIL-9の機能の解明	杉本直也	内科学講座	¥1,430,000	文部科学省科 学研究費補助 委 金
ェクソソームを利用した下垂体腺腫でのソマト スタチン受容体発現の評価システムの開発	盛田幸司	内科学講座	¥390,000	利学研究費助 成事業 基盤 委 研究C
糖尿病性腎臓病の病態基盤におけるユビキ チンリガーゼKLHL3の役割の解明	石澤健一	内科学講座	¥0	全球 (本) 文部科学省科学研究費補助 金
よき医師」を育成するための入学者選抜方 まと卒前教育の効果の検証	大久保由美 子	内科学講座	¥780,000	利学研究費助 成事業 基盤 委 研究C
理系アカデミアのパワハラ・アカハラ尺度の開 発	大久保由美 子	内科学講座	¥200,000	利学研究費助 成事業 基盤 委 研究B

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
超高齢社会を支える卒前からの四肢脊柱診 察教育プログラムの開発と評価	大久保由美 子	内科学講座	¥55,000	和 科学研究費助 成事業 基盤 研究C
一般市民の教育参画システム構築から探索 する市民に寄り添う医学教育の質的研究	大久保由美 子	内科学講座	¥100,000	利学研究費助 成事業 基盤 委 研究C
Post-CC OSCE を国家試験化するにあたって の妥当性・信頼性・公平性等の検証に関する 研究	大久保由美 子	内科学講座	¥0	種 厚生労働行政 推進調査事業 委
サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の 把握及び支援基盤の構築	長瀬洋之	内科学講座	¥1,500,000	運 厚生労働省 委
ト児から若年成人での生物学的製剤の適正 吏用に関するエビデンスの創出	長瀬洋之	内科学講座	¥1,000,000	(種) 厚生労働省 委
気管支喘息での神経系-免疫系クロストーク こおける好酸球の役割の解明	長瀬洋之	内科学講座	¥2,210,000	(神) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
Sykはどのような機序により膠原病・慢性炎症 こおける動脈硬化に促進的に作用するか	津久井大輔	内科学講座	¥1,040,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
急性骨髄性白血病に対するCLL-1特異的キメ ラ抗原受容体T細胞療法の改良	田代晴子	内科学講座	¥1,300,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	田中篤	内科学講座	¥17,160,000	(種) 厚生労働省 ・ 委
小児期・移行期を含む包括的対応を要する希 少難治性肝胆膵疾患の調査研究	田中篤	内科学講座	¥500,000	(補) 厚生労働省 委
gG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の 確立を目指す研究	田中篤	内科学講座	¥500,000	種 厚生労働省 委
Jンパ性悪性腫瘍におけるdexamethasone投 与の意義についての研究	白崎良輔	内科学講座	¥1,560,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
デノミクスを用いた感染性心内膜炎の新規診 断法の検討	片岡明久	内科学講座 (循環器)	¥1,300,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
乎吸器疾患におけるIgAの病原性作用の解明 ≤予防法の開発	鈴川真穂	内科学講座	¥1,690,000	全 文部科学省科 学研究費補助 委 金
MHC-1発現消失腫瘍細胞に対するTolerance NKの再活性化アプローチ	高橋秀徳	緩和医療学 講座	¥0	注 文部科学省科 学研究費補助 委 金
イムノグラムを用いた尿路上皮癌に対する オーダーメイドの免疫治療戦略	川合剛人	泌尿器科学 講座	¥2,080,000	注 文部科学省科 学研究費補助 委 金
がん患者に対する運動器至適包括管理の基 盤確立を目指した臨床研究	緒方直史	リハビリテー ション科	¥1,690,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
吸引脂肪組織の酸素化による生着率の高い 新規脂肪注入移植法の開発	堂後京子 (佐々木京 子)	形成·口腔顎 顔面外科学 講座	¥0	委金
in vivo遺伝子導入による軟骨再生医療への 展開	山岡尚世	形成·口腔顎 顔面外科学 講座	¥1,170,000	文部科学省科学研究費補助 金 金
好酸球性副鼻腔炎に伴う神経性嗅覚障害の 病態生理の解明	籠谷領二	耳鼻咽喉科 学講座	¥1,560,000	文部科学省科学研究費補助 委 金
鼻過敏症の病態生理にいおけるTRPM8の役割についての解析	清水裕也	耳鼻咽喉科 学講座	¥1,300,000	全球型 (全球型) (
抗体関連型拒絶反応に対する抗BTLA抗体と 抗PD−1抗体併用療法の確立	今水流智浩	心臓血管外 科学講座	¥780,000	全 文部科学省科 学研究費補助 委 金
抗CD80/86抗体により誘導される免疫寛容維 特機序の解析	内山雅照	心臓血管外 科学講座	¥0	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
MRSA骨感染症の克服を目指したテジゾリド 最適化投与法の構築	渡部欣忍	整形外科学 講座	¥1,300,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
育成年代投手における投球数が肩甲骨位置 と投球動作に与える影響の解明	中川匠	整形外科学 講座	¥2,080,000	(補) 文部科学省科 学研究費補助 委 金
末梢組織血行の評価に特化したICG蛍光造影 撮影解析装置の開発	御任大輔	整形外科学 講座	¥3,900,000	(种) 日本学術振興 会 委
トップアスリートの競技復帰を加速するための 高気圧酸素治療指針の確立	安井洋一	整形外科学 講座	¥4,160,000	(補) 日本学術振興会 会
いつでも、どこでも実施できる仮想空間を用い る整形外科手術トレーニング研修法の開発	安井洋一	整形外科学 講座	¥800,000	J&J Medical Research 委 Grant
/irtual reality(VR)を用いた個人防護具着脱 去教育研修ツールの有用性を明らかにする	安井洋一	整形外科学 講座	¥300,000	(種) 医学教育研究 助成金 委
Virtual reality(VR)を用いた心肺蘇生法に対 する新規学習法の基盤の確立	安井洋一	整形外科学 講座	¥300,000	無 先端研究推進 助成金 委
/irtual realityによる個人防護具着脱法研修 は実習と同等の教育効果がある ―無作為化オープンラベル比較試験—	安井洋一	整形外科学 講座	¥300,000	無 先端研究推進 助成金 委
Virtual Realityを用いた 心肺蘇生法に対する 新規学修法の基盤開発	安井洋一	整形外科学 講座	¥1,000,000	(神) 大川情報通信 基金 委
高齢者の骨盤骨折の病態解明と低侵襲内固 定手術法開発のための基礎研究	鈴木 卓	整形外科学 講座	¥3,640,000	(种) 日本学術振興 会 委
整形外科外傷包括的レジストリーシステム構築と臨床コホート応用の戦略的研究	乾 貴博	整形外科学 講座	¥4,550,000	(補) 日本学術振興 会 委

TT	I	I	Ι	T	
研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助	元又は委託元
子どもロコモと骨折の関連に関するコホート研究 - 小児運動器機能不全は骨折発生に影響を与えるか? -	中川知郎	整形外科学 講座	¥500,000	補 委	整形災害外科 学研究助成財 団
四肢再接着後のヘパリン全身投与が毛細血 管新生に与える影響	宮本英明	整形外科学 講座	¥1,000,000	補 委	JA共済交通事 故医療研究助 成
MPIによる動作解析を用いたインソールの有効性と安全性に関する研究	豊岡青海	整形外科学 講座	¥4,160,000	補 委	日本学術振興 会
スモールデータ駆動型機械学習による仮想頭 蓋底手術シミュレーションシステムの開発	辛正廣	脳神経外科 学講座	¥1,560,000	補 委	文部科学省科 学研究費補助 金
アイトラッキングによるカテーテル術者の目線解析と訓練に役立つ目線パターンの解明	庄島正明	脳神経外科 学講座	¥1,300,000	補 委	文部科学省科 学研究費補助 金
ミスマッチ修復欠損神経膠腫細胞に対する TMZ抵抗性を克服する新治療の開発	樋口芙未	脳神経外科 学講座	¥1,820,000	補 委	文部科学省科 学研究費補助 金
乾癬治療における光線療法、ホスホジエステラーゼ4阻害薬内服の相乗効果の機序の解明	鎌田昌洋	皮膚科学講 座	¥1,560,000	補 委	文部科学省科 学研究費補助 金
乾癬モデルマウスにおける表皮resident memory T cellの解析	多田弥生	皮膚科学講 座	¥1,170,000	補 委	文部科学省科 学研究費補助 金
胆道癌浸潤病巣における線維性間質の病態 と、抗線維化治療への展開	羽賀敏博	病院病理部	¥1,430,000	補 委	文部科学省科 学研究費補助 金
アブスコパル効果のメカニズム解明 - 腫瘍免疫に基づく画期的腫瘍治療戦略 -	白石憲史郎	放射線科学 講座	¥3,200,000	補 委	文部科学省科 学研究費補助 金
難治性リンパ漏に対する胸管内リンパ液自動 誘導システムの開発	山本真由	放射線科学 講座	¥1,040,000	補 委	文部科学省科 学研究費補助 金

計129件

論文発表等の実績 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名·出版年月等	論文種別
Omili T. Nakahara C. Eviita		End-of-life care provided in emergency medical system in Japan.	American Journal of Emergency Medicine.2021 Jul;45():673-675	Letter
Ishii K., Kurozumi T., Suzuki T., et al.	救急医学講座	Impact of the COVID-19 pandemic on a trauma center of a university hospital in Japan	Journal of Orthopaedic Science.2022 Jan;27(1):207–210	Article
Kanda J., Nakahara S., Nakamura S., et al.	救急医学講座	Association between active cooling and lower mortality among patients with heat stroke and heat exhaustion	PLoS ONE.2021 Nov;16():	Article
Asami M, Nakahara S, Miyake Y, Kanda.et al.	救急医学講座	Serum D-dimer level as a predictor of neurological functional prognosis in cases of head injuries caused by road traffic accidents	BMC Emerg Med. 2022 Mar 26;22(1):51.	Article
Kanda T, Ito K, Tsunoyama T.et al.	救急医学講座	Case of horseshoe kidney injury treated with simultaneous damage control operation and endovascular therapy in a hybrid emergency system (HERS)	Trauma Surg Acute Care Open. 2022 Mar 1;7(1):e000885.	Case report
Kanda J, Miyake Y, Umehara T, ,et al.	救急医学講座	pandemic on the incidence of heat stroke and heat exhaustion in Japan: a nationwide observational study based on the Heatstroke STUDY 2019 (without COVID-	Acute Med Surg. 2022 Feb 6;9(1):e731. doi: 10.1002/ams2.731. eCollection 2022 Jan-Dec.	Article
Morimura N.	救急医学講座	Medical challenges in hosting 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games to let us see brilliant blue sky over the clouds	Anaesth Crit Care Pain Med. 2021 Aug;40(4):100930.	Others
Ito K, Sugimoto M, Tsunoyama T.,et al.	救急医学講座	A trauma patient care simulation using extended reality technology in the hybrid emergency room system	J Trauma Acute Care Surg. 2021 May 1;90(5):e108-e112.	Article
Tamaki M., Dogo K., Fukuba M., et al.	形成外科学講座	Precut Cast: An Easier and Less Stressful Cast Removal Procedure for Pediatric Patients	Plastic and Reconstructive Surgery - Global Open.2021 Jul;():	Article
Nagura F., Kataoka A., Ishibashi R., et al.	循環器内科	Effect of oral tolvaptan for 1 year in patients with functional mitral regurgitation	Heart and Vessels.2022 Mar;37(3):434-442	Article
Watanabe Y., Murasato Y., Suzuki N., et al.	循環器内科	Reply: When is the optimal time point for detecting malapposition in coronary bifurcation trials?	EuroIntervention.2021 Sep;17(7):609-610	Letter
Watanabe Y., Murasato Y., Yamawaki M., et al.	循環器内科	Proximal optimisation technique versus final kissing balloon inflation in coronary bifurcation lesions: The randomised, multicentre PROPOT trial	EuroIntervention.2021 Oct;17(9):747-756	Article
Ishibashi R, Kataoka A, Watanabe Y, et al.	循環器内科	Pseudopericardial effusion due to excess tension caused by a guide catheter during the MitraClip procedure: Pseudo-PE during MitraClip procedure	AsiaIntervention 2021 Jul; 7(1): 60-61	Case report
Kataoka A, Katagiri S, Kawashima H, et al.	循環器内科	Association between periodontal bacteria and degenerative aortic stenosis: a pilot study	J Periodontal Implant Sci 2021 Aug; 51(4): 228-238	Article
Isojima T., Sims N.A.	小児科学講座	Cortical bone development, maintenance and porosity: genetic alterations in humans and mice influencing chondrocytes, osteoclasts, osteoblasts and osteocytes	Cellular and Molecular Life Sciences.2021 Aug;78(15):5755–5773	Review
Motoyama K., Isojima T., Sato Y., et al.	小児科学講座	Trace element levels in mature breast milk of recently lactating Japanese women	Pediatrics International.2021 Aug:63(8):910–917	Article
Sato Y., Isojima T., Takamiya K., et al.	小児科学講座	Longitudinal glycaemic profiles during remission in 6q24- related transient neonatal diabetes mellitus	Hormone Research in Paediatrics.2021 Oct;94():229-234	Article
Nishino T., Endo S., Miyano H., et al.	小児科学講座	Is the estimated glomerular filtration rate formula useful for evaluating the renal function of Down syndrome?	Pediatrics International.2021 Aug;63(8):944–950	Article
	Onuki T., Nakahara S., Fujita T., et al. Ishii K., Kurozumi T., Suzuki T., et al. Kanda J., Nakahara S., Miyake Y., Kanda T., Ito K., Tsunoyama T. et al. Kanda J., Miyake Y., Umehara T., et al. Morimura N. Ito K., Sugimoto M., Tsunoyama T., et al. Tamaki M., Dogo K., Fukuba M., et al. Nagura F., Kataoka A., Ishibashi R., et al. Watanabe Y., Murasato Y., Suzuki N., et al. Watanabe Y., Murasato Y., Yamawaki M., et al. Ishibashi R., Kataoka A., Watanabe Y., et al. Kataoka A., Katagiri S., Kawashima H., et al. Isojima T., Sims N.A. Motoyama K., Isojima T., Sato Y., et al. Sato Y., Isojima T., Takamiya K., et al.	能病院における所 Onuki T., Nakahara S., Fujita 大, et al. Ishii K., Kurozumi T., Suzuki 大, et al. Kanda J., Nakahara S., Myake Y., Kanda S., Nakamura S., et al. Asami M. Nakahara S., Miyake Y., Kanda T., Ito K., Tsunoyama T., et al. Kanda J., Miyake Y., Umehara T., et al. Morimura N. 救急医学講座 Ito K., Sugimoto M., Tsunoyama T., et al. Tamaki M., Dogo K., Fukuba M., et al. Nagura F., Kataoka A., Ishibashi R., et al. Watanabe Y., Murasato Y., Suzuki N., et al. Watanabe Y., Murasato Y., Yamawaki M., et al.	Monitar T., Nakahara S., Fujita 教念医学講座 ind-of-life care provided in emergency medical system in Japan. Indiapan. I	Oncide T., Nachahara S., Fujib. Oncide T., Nachahara S., Fujib. Drain P. (Line Control Cont

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機 能病院における所	題名	雑誌名·出版年月等	論文種別
19	Nishino T., Endo S., Miyano H., et al.	小児科学講座	Reference serum creatinine levels according to sex, age, and height in children with Down syndrome	European Journal of Pediatrics.2021 Sep;180(9):2977-2983	Article
20	Nishino T., Takahashi K., Ono S., et al.	小児科学講座	Blood oxygen level-dependent imaging for evaluating C3 glomerulonephritis	Pediatrics International.2021 Nov;63(11):1386–1388	Article
21	Nishino T., Takahashi K., Ono S., et al.	小児科学講座	Effects of low-dose oxygen administration on renal blood oxygenation level-dependent MRI in children with glomerulonephritis	Magnetic Resonance Materials in Physics, Biology and Medicine.2021 Dec;34(6):823- 831	Article
22	Nishino T., Ito N., Tomori S., et al.	小児科学講座	Effects of Temperature and Position Change on Neonatal Brain Regional Oxygen Saturation in Tub Bathing: A Prospective Study	Pain and Therapy.2021 Dec;10(2):1269- 1282	Article
23	Nishino T., Takahashi K., Tomori S., et al.	小児科学講座	Cyclosporine A C 1.5 monitoring reflects the area under the curve in children with nephrotic syndrome: a single-center experience	Clinical and Experimental Nephrology.2022 Feb;26(2):154-161	Article
24	Enkai S., Kouguchi H., Inaoka D.K., et al.	小児科学講座	In vivo efficacy of combination therapy with albendazole and atovaquone against primary hydatid cysts in mice	European Journal of Clinical Microbiology and Infectious Diseases.2021 Sep;40(9):1815–1820	Article
25	Kurozumi T., Miyamoto H., Suzuki T., et al.	整形外科学講座	Does Simultaneous Fixation of Both Distal Radius and Distal Ulnar Fractures Improve Outcomes? A Retrospective Cohort Study	Geriatric Orthopaedic Surgery and Rehabilitation.2021 Aug;12():	Article
26	Nakayama Y., Sonohata M., Kitajima M., et al.	整形外科学講座	Fragility fracture following total hip arthroplasty	Journal of Orthopaedic Science.2022 Mar;27(2):402–407	Article
27	Suzuki T., Kurozumi T., Nakayama Y., et al.	整形外科学講座	Better discrimination of the concomitant peri-ankle fractures in the spiral tibial shaft fractures by thin-slice axial and three-dimensional CT	Medicine.2021 Oct;100(40):e27429	Article
28	Toyooka S., Shimazaki N., Masuda H., et al.	整形外科学講座	Preoperative magnetic resonance imaging as a diagnostic aid for hypermobile lateral meniscus	Diagnostics.2021 Dec;11(12):	Article
29	Toyooka S., Shimazaki N., Yasui Y., et al.	整形外科学講座	Validity of a simple footprint assessment board for diagnosing the severity of flatfoot: a prospective cohort study	BMC Musculoskeletal Disorders.2021 Dec;22(1):	Article
30	Toyooka S., Osaki Y., Masuda H., et al.	整形外科学講座	Distribution of Coronal Plane Alignment of the Knee Classification in Patients with Knee Osteoarthritis in Japan	Journal of Knee Surgery.2022 Feb;():	Article
31	Tsukada K., Yasui Y., Kubo M., et al.	整形外科学講座	Operative Outcome of Side-Locking Loop Suture Technique Accompanied by Autologous Semitendinosus Tendon Grafting for Chronic Rupture of Achilles Tendon	Foot and Ankle Orthopaedics.2021 Jun;6(2):	Article
32	Tsukada K., Yasui Y., Sasahara J., et al.	整形外科学講座	Ulnar nerve dislocation and subluxation from the cubital tunnel are common in college athletes	Journal of Clinical Medicine.2021 Jul;10(14):	Article
33	Hidaka R., Matsuda K., Kawano H.	整形外科学講座	Rapid Destruction of the Hip Joint After Acetabular Fracture in an Elderly Patient	Arthroplasty Today.2021 Oct;11():122-126	Article
34	Inui T., Watanabe Y., Kurata Y., et al.	整形外科学講座	Early postoperative Barthel index score and long-term walking ability in patients with trochanteric fractures walking independently before injury: a retrospective cohort study	Archives of Orthopaedic and Trauma Surgery.2021 Aug;141(8):1283-1290	Article
35	Sasaki G., Watanabe Y., Yasui Y., et al.	整形外科学講座	Induced membrane technique using an equal portion of autologous cancellous bone and β –tricalcium phosphate provided a successful outcome for osteomyelitis in large part of the femoral diaphysis – Case report	Trauma Case Reports.2021 Dec;36:100545	Article
36	Yasui Y., Dankert J.F., Tonogai I., et al.	整形外科学講座	The Effect of Single vs Serial Platelet-Rich Plasma Injections in Osteochondral Lesions Treated With Microfracture: An In Vivo Rabbit Model	American Journal of Sports Medicine.2021 Dec;49(14):3876-3886	Article
37	Hirahata M.,Kitagawa T.,Yasui.,et al	整形外科学講座	Vacuum phenomenon as a predictor of kyphosis after implant removal following posterior pedicle screw fixation without fusion for thoracolumbar burst fracture: a single-center retrospective study	BMC Musculoskelet Disord.2022 jan;23(1):94	Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機	題名	雑誌名•出版年月等	論文種別
田口	ルベロハ イ	能病院における所	超行 Accuracy and reliability of a smartphone application for	無認名 • 四版平月 等 J Phys Ther Sci.2021 may;33(5):417-422	HIII 入7里月リ
38	Ishii K., Oguro D., Watanabe Y., et al	整形外科学講座	measuring the knee joint angle	. ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	Article
39	Toyooka S., Masuda H., Nishihara N., et al	整形外科学講座	Postoperative laxity of the lateral soft tissue is largely negligible in total knee arthroplasty for varus osteoarthritis	Journal of Orthopaedic Surgery.2021Jan- Apr;29(1):23094990211002002	Article
40	Hayashi N., Igarashi Y., Harima H.	精神神経科学講座	Delusion progression process from the perspective of patients with psychoses: A descriptive study based on the primary delusion concept of Karl Jaspers	PLoS ONE.2021 Apr;16():	Review
41	Kunugi H.	精神神経科学講 座	Gut microbiota and pathophysiology of depressive disorder	Annals of Nutrition and Metabolism.2021 Oct;77():11–20	Review
42	Sumiyoshi R., Tashiro H., Shirasaki R., et al.	内科学講座	The FLT3 internal tandem duplication mutation at disease diagnosis is a negative prognostic factor in myelodysplastic syndrome patients	Leukemia Research.2022 Feb;113():	Article
43	Suzuki Y., Yamaguchi M., Mori M., et al.	内科学講座	Eotaxin (CCL11) enhances mediator release from human basophils	Allergy: European Journal of Allergy and Clinical Immunology.2021 Nov;76(11):3549-3552	Letter
44	Hioki H., Brugaletta S., Gomez-Lara J., et al.	内科学講座		Cardiovascular Revascularization Medicine.2022 Feb;35():44-50	Article
45	Iseki Y., Hioki H., Watanabe Y., et al.	内科学講座	Fluttering Bioprosthetic Valve Leaflet Detected by Intravascular Ultrasound During Valve-in-Valve Transcatheter Aortic Valve Replacement	JACC: Case Reports.2021 Jun;3(6):910- 912	Article
46	Kataoka A., Kito K., Sajima T., et al.	内科学講座	Party Balloon Inflation Maneuver During Saline Contrast Transthoracic Echocardiography to Detect Patent Foramen Ovale	JACC: Case Reports.2022 Jan;4(2):102- 104	Article
47	Katayama T., Yokoyama N., Watanabe Y., et al.	内科学講座	Blood Coagulation Changes With or Without Direct Oral Anticoagulant Therapy Following Transcatheter Aortic Valve Implantation	American Journal of Cardiology.2021 May;147():88-93	Article
48	Kobayashi K., Nagase H., Sugimoto N., et al.	内科学講座	Mepolizumab decreased the levels of serum galectin-10 and eosinophil cationic protein in asthma	Asia Pacific Allergy.2021 Jul;11():	Article
49	Nagase H., Nishimura Y., Matsumoto H., et al.	内科学講座	The prevalence of comorbid respiratory disease among COVID-19 patients, and mortality during the first wave in Japan: A nationwide survey by the Japanese Respiratory Society	Respiratory Investigation.2021 Sep;59(5):679-682	Article
50	Nagase H., Tamaoki J., Suzuki T., et al.	内科学講座	Effectiveness of mepolizumab in severe asthma in Japan: A real-world study using claims data	Clinical and Translational Allergy.2021 Oct;11(8):	Letter
51	Shibata S., Uchida S.	内科学講座	Hyperkalemia in patients undergoing hemodialysis: Its pathophysiology and management	Therapeutic Apheresis and Dialysis.2022 Feb;26(1):3-14	Review
52	Tanaka A., Notohara K.	内科学講座	Immunoglobulin G4 (IgG4)-related autoimmune hepatitis and IgG4-hepatopathy: A histopathological and clinical perspective	Hepatology Research.2021 Aug;51(8):850- 859	Review
53	Tanaka A., Hirohara J., Nakano T., et al.	内科学講座	Association of bezafibrate with transplant-free survival in patients with primary biliary cholangitis	Journal of Hepatology.2021 Sep;75(3):565- 571	Article
54	Toyota H., Sugimoto N., Kobayashi K., et al.	内科学講座	Comprehensive analysis of allergen-specific IgE in COPD: mite-specific IgE specifically related to the diagnosis of asthma-COPD overlap	Allergy, Asthma and Clinical Immunology.2021 Dec;17(1):	Article
55	Yamazaki O., Yamashita M., Li J., et al.	内科学講座	A novel I551F variant of the Nab/HCO3- cotransporter NBCe1-A shows reduced cell surface expression, resulting in diminished transport activity	American Journal of Physiology - Renal Physiology.2021 Dec;321(6):F771-F784	Article
56	Yanagisawa D., Abe K., Amano H., et al.	内科学講座	Thrombotic events and rebleeding after hemorrhage in patients taking direct oral anticoagulants for non-valvular atrial fibrillation	PLoS ONE.2021 Nov;16():	Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機	題名	雑誌名•出版年月等	論文種別
- 1		能病院における所	Activation of Rac1-Mineralocorticoid Receptor Pathway	Hypertension.2021 Jul;78(1):82-93	
57	Hirohama D., Nishimoto M., Ayuzawa N., et al.	内科学講座	Contributes to Renal Injury in Salt-Loaded db/db Mice		Article
58	Hirohata S., Kikuchi H., Ueda M., et al.	内科学講座	Histopathology of perforated gastrointestinal tracts in Behçet's disease: Evidence for the critical role of thrombophilia	Clinical and Experimental Rheumatology.2021 Sep;39(5):S137-S138	Letter
59	Hirohata S.	内科学講座	Histopathological characteristics of central nervous system in chronic progressive neuro-Behçet's disease	Journal of the Neurological Sciences.2022 Mar;434():	Letter
60	Murakawa M., Arai S., Kawagoe M., et al.	内科学講座	A Ruptured Jejunal Arterial Aneurysm in a Young Woman Undergoing Chronic Hemodialysis Due to Myeloperoxidase-antineutrophil Cytoplasmic Antibody- associated Vasculitis	Internal Medicine.2021 Sep;60(18):2939– 2945	Article
61	Nakajima R., Matsuo T., Sumiyoshi R., et al.	内科学講座	Extramedullary blast crisis in a chronic myeloid leukaemia patient after achieving a major molecular response with bosutinib	British Journal of Haematology.2022 Jan;196(1):e9–e11	Letter
62	Tamura Y., Morimoto C., Kuribayashi-Okuma E., et al.	内科学講座	Melinjo seed extract stimulates intestinal ABCG2 expression to reduce serum uric acid levels in hyperuricemic rats	Journal of Functional Foods.2021 Dec;87():	Article
63	Tamura Y., Sumiyoshi R., Yamamoto T., et al.	内科学講座	Bilateral nephromegaly due to direct leukemic cell invasion in the initial and relapse phases of T-cell acute lymphoblastic leukaemia: A case report	Medicine (United States).2021 Dec;100(51):E28391	Article
64	Tsukui D., Kono H.	内科学講座	Multiple Renal Microaneurysms in Polyarteritis Nodosa	Mayo Clinic Proceedings.2021 Aug;96(8):2277-2278	Note
65	Chen H., Ishihara M., Horita N., et al.	内科学講座	Effectiveness of cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy in the treatment of malignancy-related ascites: A systematic review and meta-analysis	Cancers.2021 Oct;13(19):	Review
66	Chen H., Ishihara M., Horita N., et al.	内科学講座	Effect of adjuvant and palliative chemotherapy in large cell neuroendocrine carcinoma of the lung: A systematic review and meta-analysis	Cancers.2021 Dec;13(23):	Review
67	Edo N., Morita K., Ishiwata C., et al.	内科学講座	Diagnostic value of standard deviation score of log- transformed serum dehydroepiandrosterone sulfate in patients with hypothalamic-pituitary-adrenal axis insufficiency	Endocrine Journal.2021 Nov;68(11):1337– 1345	Article
68	Hayama Y., Tomyo F., Ueno M., et al.	内科学講座	Renal involvement as rare acute tubulointerstitial nephritis in a patient with eosinophilic disorder treated with early add-on administration of mepolizumab	Internal Medicine.2021 Dec;60(23):3759- 3764	Article
69	Hioki H., Kozuma K., Kinoshita Y., et al.	内科学講座	Ischemic/bleeding event after short dual-antiplatelet therapy in patients with high bleeding risk: Sub-analysis of the MODEL U-SES study	Journal of Cardiology.2021 Aug;78(2):107- 113	Article
70	Hioki H., Kozuma K., Kobayashi Y., et al.	内科学講座	Wearable cardioverter-defibrillators after myocardial infarction: a review of its clinical utility and unmet needs in current clinical practice	Cardiovascular Intervention and Therapeutics.2022 Jan;37(1):53-59	Review
71	Nagase H, Nishimura Y, Matsumoto H, et al.	内科学講座	Japanese Respiratory Society SAfAI, Inflammation. The prevalence of comorbid respiratory disease among COVID-19 patients, and mortality during the first wave in Japan: A nationwide survey by the Japanese Respiratory Society.	Respir Investig, 2021 Sep;59(5):679-682	Article
72	Shibata S, Kishi T	内科学講座	Updates on renin-angiotensin system blockers in hypertensive patients with COVID-19.	Am J Hypertens. 2021 Aug 18:hpab130.	Others
73	Matsumoto K, Ohfuji S, Abe M, et al.	内科学講座	Environmental factors, medical and family history, and comorbidities associated with primary biliary cholangitis in Japan: A multicenter case-control study.	J Gastroenterol.2022 Jan;57(1): 19-29	Article
74	Saito S, Tashiro H, Sumiyoshi R, et al.	内科学講座	Second allogeneic transplantation using umbilical cord blood for a patient with relapsed ALK+ anaplastic large cell lymphoma after allogeneic bone marrow transplantation in the era of ALK inhibitors: A case report	Medicine (Baltimore).2021 Apr; 100(15) e25576	Case report
75	Kobayashi S., Hirose M., Akutsu Y., et al.	脳神経内科学講 座	Disconnected Motor Intention and Spatial Attention in a Case of Probable Marchiafava-Bignami Disease	Cognitive and Behavioral Neurology.2021 Sep;34(3):226-232	Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機 能病院における所	題名	雑誌名·出版年月等	論文種別
		14分りでによって	Aquaporin-4-antibody-positive neuromyelitis optica	Internal Medicine.2021 May;60(10):1611-	
76	Hamada Y., Takahashi K., Kanbayashi T., et al.	脳神経内科学講 座	spectrum disorder in a patient with Charcot-Marie- Tooth disease type 1A	1614	Article
77	Hamada Y., Kanbayashi T., Takahashi K., et al.	脳神経内科学講 座	Weak shoulder and arm sparing signs in amyotrophic lateral sclerosis	Muscle and Nerve.2022 Mar;65(3):311-316	Article
78	Hokkoku K., Erra C., Cuccagna C., et al.	脳神経内科学講 座	Intensive care unit-acquired weakness and positioning- related peripheral nerve injuries in COVID-19: A case series of three patients and the latest literature review	Brain Sciences.2021 Sep;11(9):	Review
79	Hokkoku K., Coraci D., Gatto D.M., et al.	脳神経内科学講 座	Neuralgic amyotrophy with isolated mononeuropathy of the musculocutaneous nerve: a problematic differential diagnosis of cervical radiculopathy	Acta Neurologica Belgica.2021 Oct;():	Letter
80	Kanbayashi T., Tanaka S., Hatanaka Y., et al.	脳神経内科学講 座	Myasthenia gravis with inflammatory myopathy without elevation of creatine kinase	Neuromuscular Disorders.2021 Jun;31(6):570–573	Article
81	Kanbayashi T., Tanaka S., Uchida Y., et al.	脳神経内科学講 座	Nasogastric tube syndrome: The size and type of the nasogastric tube may contribute to the development of nasogastric tube syndrome	Internal Medicine.2021 Jun;60(12):1977– 1979	Article
82	Kanbayashi T., Sonoo M.	脳神経内科学講 座	The course of facial corticobulbar tract fibers in the dorsolateral medulla oblongata	BMC Neurology.2021 Dec;21(1):	Article
83	Sonoo M., Kanbayashi T., Shimohata T., et al.	脳神経内科学講 座	Estimation of the true infection rate and infection fatality rate of coronavirus disease 2019 in each country	Journal of Infection and Public Health.2022 Feb;15(2):210–213	Article
84	Yamamoto M., Furui S., Yamada K., et al.	放射線科学講座	Percutaneous Methods for Reinsertion of a Dislodged External Pancreatic Duct Stent	CardioVascular and Interventional Radiology.2021 Jul;44(7):1147-1150	Letter
85	Shimano K., Chang K., Hara Y., et al.	麻酔科学講座	Successful treatment of bepridil-induced intraoperative torsades de pointes by isoproterenol infusion	JA Clinical Reports.2021 Dec;7(1):	Article
86	Sajima T., Onimaru T., Sawamura S.	麻酔科学講座	Temporary worsening of mitral regurgitation due to conduction disturbance after transcatheter aortic valve implantation	JA Clinical Reports.2021 Dec;7(1):	Article
87	Sugimoto M., Takahashi Y., Sugimura Y.K., et al.	麻酔科学講座	Active role of the central amygdala in widespread mechanical sensitization in rats with facial inflammatory pain	Pain.2021 Aug;162(8):2273-2286	Article
88	Nakata Y, Watanabe Y, Otake H, Ozaki A.	麻酔科学講座	Do technically efficient surgeons continue to provide active clinical services in a university hospital?	PLoS One 2021 Jul 9; 16 (7):e0254515	Article
89	Nakata Y, Watanabe Y, Otake H.	麻酔科学講座	Equality of surgical fee schedule in Japan: a retrospective observational study.	Health Services Insights 2021 Oct; 13(1)	Article
90	Akiyama N., Okamura T., Yoshida M., et al.	医学部輸血部	A questionnaire survey on evaluation for penetration and compliance of the Japanese Guideline on Febrile Neutropenia among hematology-oncology physicians and surgeons	Supportive Care in Cancer.2021 Nov;29(11):6831-6839	Article
91	Kanamoto Y., Sakao Y., Kuroda H., et al.	外科学講座	Selection of pathological n0 (Pn0) in clinical ia (cia) lung adenocarcinoma by imaging findings of the main tumor	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery.2021 Aug;27(4):230–236	Article
92	Hosoda T., Ishioka S., Hijikata K.	外科学講座	Laparoscopic treatment of an abdominoscrotal hydrocele: A case report	International Journal of Surgery Case Reports.2022 Jan;90():	Article
93	Saito Y., Asami M., Miki A., et al.	外科学講座	Deep Neck Infection Complicated by Phlegmonous Esophagitis and Mediastinitis	Annals of Thoracic Surgery.2021 Jun;111(6):e403-e406	Article
94	Sakao Y., Suzuki K., Takeo S., et al.	外科学講座	Oncological issues in staging mediastinal lymph node metastasis for left lung cancer	Asian Journal of Surgery.2022 Jan:45(1):143–147	Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機 能病院における所	題名	雑誌名•出版年月等	論文種別
		能病院における所	Construction of a computational mechanical model of	Bio-Medical Materials and	
95	Yamauchi Y., Saito Y., Yasuda A., et al.	外科学講座	bronchi for practical simulation of the optimal positive intrathoracic pressure conditions during general thoracic surgery	Engineering.2021 Nov;32(6):333-345	Article
96	Yamauchi Y., Saito Y.	外科学講座	Treatment selection with organoids in an EGFRm + TP53m stage IA1 patient with recurrence after radical surgery	Journal of Thoracic Disease.2022 Mar;14(3):595–598	Review
97	Hayama T., Ozawa T., Tsukamoto M., et al.	外科学講座	Predicting Overall Survival Using Preoperative Nutritional and Inflammation Status for Colorectal Cancer	In Vivo.2022 Feb;36(1):450-457	Article
98	Yokote F, Yamauchi Y, Komura H, et al.	外科学講座	A novel method of tracheal anastomosis healing using a single submucosal injection of basic fibroblast growth factor: initial report.	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 2022 Mar;24:61(4)917-924	Article
99	Dejima H, Hu X, Chen R, et al.	外科学講座	Immune evolution from preneoplasia to invasive lung adenocarcinomas and underlying molecular features	Nature Communications 2021 May;12(1):2722	Article
100	Hayama T, Hashiguchi Y, Ozawa T, et al.	外科学講座	The preoperative geriatric nutritional risk index (GNRI) is an independent prognostic factor in elderly patients underwent curative resection for colorectal cancer	Scientific reports2022 Mar,12(1)3682	Article
101	Mimura T., Noma H., Matsumoto K., et al.	眼科学講座	Concentration of droplets from patients during normal breathing and speech and their importance in protection from coronavirus sars-cov-2 (Covid-19) infection	Open Ophthalmology Journal.2021 Jul;15(1):109–107	Article
102	Mimura T., Funatsu H., Noma H., et al.	眼科学講座	Silent information regulator t1 in aqueous humor of patients with age-related macular degeneration	Open Ophthalmology Journal.2021 Oct;15(1):187-195	Article
103	Mimura T., Fujishima H., Uchio E., et al.	眼科学講座	Evaluation of Pollen Adhesion to Verofilcon-A Soft Contact Lenses	Open Ophthalmology Journal.2021 Dec;15(1):305-313	Article
104	Sasamori Y., Takehara K., Terashima T., et al.	産婦人科学講座	A case of adenomyosis with leiomyoma that was effectively treated with relugolix and kamishoyosan addon therapy	BMC Women's Health.2021 Dec;21(1):	Article
105	Yatsuki K., Ryo E., Morita M., et al.	産婦人科学講座	Correlation between newborn size and gross fetal movement as counted by a fetal movement acceleration measurement recorder	Journal of Developmental Origins of Health and Disease.2021 Jun;12(3):452– 455	Article
106	Kagoya R., Kondo K., Kishimoto-Urata M., et al.	耳鼻咽喉科学講 座	A murine model of eosinophilic chronic rhinosinusitis using the topical application of a vitamin D3 analog	Allergy: European Journal of Allergy and Clinical Immunology.2021 May;76(5):1432– 1442	Article
107	Oyama Y., Ito K., Asami M., et al.	脳神経外科学講座	A case of delayed-onset vertebral arteriovenous fistula secondary to stab wound of the neck	Journal of Trauma and Acute Care Surgery.2021 Jun;90(6):E169-E170	Note
108	Oyama Y., Uno T., Asami M., et al.	脳神経外科学講座	Emergency carotid artery stenting for progressive traumatic internal carotid artery occlusion	Trauma Surgery and Acute Care Open.2022 Jan;7(1):	Article
109	Keisuke Onoda, Ai Kawaguchi, Yoshinori Takaya.,et al.	脳神経外科学講座	A Case of Dermoid Cyst Arising in the Temporal Lobe.	Medicine .2021 Dec;100(51) e28391	Case report
110	Naotaka Iwamoto, Kyongsong Kim, Rinko Kokubo, et al.	脳神経外科学講座	Systematic Review of Spinal Lymphomatoid Granulomatosis Cases.	World neurosurgery: X.2021 Apr;11 100106–100106	Article
111	Yamada Y., Nakagawa T., Miyakawa J., et al.	泌尿器科学講座	Smaller decline of renal function after nephroureterectomy predicts poorer prognosis of upper tract urothelial carcinoma: A multicentre retrospective study	Japanese Journal of Clinical Oncology.2021 Oct;51(10):1577–1586	Article
112	Kaneko T., Sakamoto A., Yoshida T., et al.	泌尿器科学講座	Penetrating penile injury due to the splintering of the floorboards in the gymnasium	IJU Case Reports.2021 Jul;4(4):221-223	Article
113	Hagiwara K., Sakamoto A., Sasaki K., et al.	泌尿器科学講座	Higher serum alkaline phosphatase value indicates the need for bone mineral density testing in non-metastatic prostate cancer patients undergoing androgen deprivation therapy	Japanese journal of clinical oncology.2022 Jan;52(1):73-80	Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機 能病院における所	題名	雑誌名•出版年月等	論文種別
114	Mukai K., Kamata M., Miyazaki M., et al.		Edoxaban prevented adverse effects including pyrexia and elevation of D-dimer caused by the combination of BRAF and MEK inhibitors in a patient with BRAF-mutant melanoma	Journal of Dermatology.2021 May;48(5):707-709	Article
115	Uchida H., Kamata M., Nagata M., et al.	皮膚科学講座	Development of diffuse large B-cell lymphoma during dupilumab treatment in a patient with atopic dermatitis: A case report	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy.2021 May;():	Letter
116	Uchida H., Kamata M., Nagata M., et al.	皮膚科学講座	Baricitinib improved alopecia areata concomitant with atopic dermatitis: A case report	Journal of Dermatology.2021 Sep;48(9):e472-e473	Letter
117	Uchida H., Kamata M., Shimizu T., et al.	皮膚科学講座		Journal of Dermatological Science.2021 Oct;104(1):55-62	Article
118	Uchida H., Kamata M., Egawa S., et al.	皮膚科学講座	Effectiveness of tacrolimus ointment on facial lesions refractory to topical corticosteroid in patients with atopic dermatitis receiving dupilumab	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy.2022 Feb;5(1):17–21	Article
119	Uchida H., Kamata M., Egawa S., et al.	皮膚科学講座	A real-world, single-center experience and the immediate impact of granulocyte and monocyte adsorption apheresis on generalized pustular psoriasis	Journal of the American Academy of Dermatology.2022 Mar;():	Article
120	Tada Y., Jo S.J., Huang Y H., et al.	皮膚科学講座	Uncovering the unmet needs among psoriasis patients in the Asia-Pacific region	Journal of Dermatology.2021 Nov;48(11):1665–1674	Article
121	Fukuyasu A., Kamata M., Sy Hau C., et al.	皮膚科学講座	Serum interleukin-10 level increases in patients with severe signs or symptoms of herpes zoster and predicts the duration of neuralgia	Journal of Dermatology.2021 Apr;48(4):511–518	Article
122	Kamata M, Tada Y	皮膚科学講座	A literature review of real-world effectiveness and safety of dupilumab for atopic dermatitis	JID Innov. 2021 Jul 30;1(3):100042.	Review

小計9件

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

TO INCLUDE TO SELECTION	
① 倫理審査委員会の設置状況	暈・ 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	金・ 無
・ 手順書の主な内容	
倫理委員会への申請受け取りから開催準備、開催、開催審議結果の書類	質作成、判定書の作成及び送
付、申請者への通知書や議事録の送付等を記載している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に 「有」に〇印を付けること。
 - 2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員 会の設置状況	 ・無				
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	 ・無				
・規定の主な内容					
利益相反マネジメント規定において、目的・定義・申告すべき教職員と自己申告の時期・自己申告すべき事項・利益相反状態の評価方法・審議結果の報告方法・啓蒙活動と情報の公開・個人情報の管理などについて規定している。					
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員	年 1419 回				

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

・研修の主な内容

会の開催状況

1. 研究関連リスクマネジメント総合研修(研究不正防止・利益相反管理・安全保障輸出管理・公的研究費の不正使用防止・知的財産管理)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

〈内科〉

○内科集談会

(繰り返す左内腸骨動脈瘤の破裂・増大により腎後性腎不全を併発し血液透析導入となった症例、大腿四頭筋生検で診断に至ったANCA関連血管炎の1例、Pembro lizumeb投与中にCOP様陰影を呈したPD-L1高発現進行期肺腺症の1例 等)

○病棟での経験症例に基づいた臨床的知見に関する勉強会。

〈循環器内科〉

- ○冠動脈造影検査の評価および結果を上級医と確認し、今後の治療方針について検討する。冠動脈形成術施行症例を確認して、適切なデバイス選択や治療方法について学ぶ。
- ○TAVI症例の検討を循環器内科医、心臓外科医、麻酔科医、放射線技師やMEなどのコメディカルスタッフの多職種で検討する。
- ○死亡症例や合併症症例に対する原因と対策を多職種で話し合い検討する。

〈緩和ケア内科〉

- ○がん性疼痛の機序、評価及びWHO方式のがん性疼痛医療法を含むがん性疼痛・呼吸困難、消化器症状等の身体症状・不安、抑うつ及びせん妄等に対する緩和ケアについて。
- ○がん医療におけるコミュニケーション技術、全人的な緩和ケアについて・放射線用法や神経ブロックの適応も含めた専門的な緩和ケアへの依頼・がん患者の療養場所の選択および地域連携についての要点。在宅における緩和ケア。
- ○症侯学的手法による病態評価と治療方法を、臨床実践をベッド サイドにおいて習得する。 プレゼンテーショントレーニング、アテンディングを併行して行う。2021年度はリモートラウン ドで実施。
- ○多職種を含むPeer-reviewを行うカンファレンス(リモート)
- ○月1~2回、論文を精読する。
- ○緩和ケアチームメンバーにて、専門的緩和ケア医療の最新の知見を学ぶ。

〈脳神経内科〉

- ○病棟の問題症例を中心に受持ち医などが、最新の文献上の知見などを調べて発表し、皆で知識 を共有すると共に診療方針を検討する。
- ○最近の興味ある論文について、研修中の医師が調べてその内容をまとめて発表し、皆で知識を 共有する。
- ○シニアの医師による臨床症候、疾患、電気生理などについてのクルズス、受持医クラスが問題症例の発表を行い、ラウンドテーブル形式で討論して、皆の知識・技能の向上を図る。2020年度よりZoom開催を主体としており、遠方、海外からの参加者もある。

〈泌尿器科〉

- ○S1合併症軽減を目指したRARC/ICUDDの術式の確立。Nesbit法
- ○ロボット支援腎盂形成術の初期経験
- ○当院における尿路上皮癌に対するPembrolizumabの使用経験
- ○初診時転移性前立腺癌のCRPCに至るまでの期間を規定する因子の検討

〈外科〉

○乳腺外科医を中心に、形成外科医、腫瘍内科医、照射線医、放射線技師、薬剤師などがチームとなって乳腺疾患に関する情報を共有・検討

する。

- ○乳腺疾患を中心に、最新のトピックスに関するデータや論文等を収集・議論・検討する。
- ○手術症例についての診断、手術術式、病理結果に関する消化器内科との検討会。
- ○腹腔鏡手術症例についての腹腔鏡手術ビデオを見ながらの手術手技の検討(12回)と、模型、動物を用いた実技指導(4回)。
- ○大腸疾患の内視鏡診断に関する講義とシミュレータを用いた大腸内視鏡挿入手技、治療手技の研修。
- ○毎週月曜日、火曜日にその週と翌週の手術予定患者について診断、合併症の有無とその対策、 周術期管理法、術式、追加的治療の必要性について討議する。
- ○毎週水曜日に呼吸器外科ならびに呼吸器疾患に関する英語文献を選定し、プレゼンを行い、ディスカッションなどを通して最新の知見を得、知識を深めるための勉強会を行う。
- ○手術症例についての診断、手術術式、病理結果に関する消化器内科との検討会。
- ○上部消化管外科手術患者に対する最新の手術方法・周術期管理法を解説した。
- ○肝胆膵疾患の外科治療対象症例に関して、手術や病理標本のプレゼンテーション、術直前症例 の術前サマリー・画像診断の確認をおこなう。
- ○消化器疾患の外科治療施行症例に関して、術前サマリー・画像診断・手術報告・病理標本のプレゼンテーションをおこなう。

〈小児外科〉

○入院患者の治療方針の決定。手術期患者の術式、術後経過、手術合併症等の検討。

〈整形外科〉

- ○当院で手術予定および手術をうけた患者に関するカンファレンス。患者情報を用い、整形外科、外傷センター全構成員が一同に会する場で、整形外科疾患、整形外科外傷に関する診断、手術適応、術式などの妥当性を研修する。 週1回実施。
- ○整形外科および関連分野の最新の知見を、講演を通して学ぶ。
- ○整形外科外傷に関する最新の知見を、講演を通して学ぶ。当院外傷センターおよび関連施設で 勤務する研修医自身が経験した症例を通して学んだ事項を発表することにより、プレゼンテーションの研修および、症例発表にたいする準備を研修する。

〈脳神経外科〉

- ○当科に入院し、今後、手術加療が必要となる患者に対し手術方針の検討を、臨床画像や3Dシミュレーション画像を用いて検討を行い、研鑽を積む。
- ○脳神経外科、脳神経内科の医師を対象に、症例の医療画像を確認しながら、画像上の特徴について、discussionを行いながら、研鑽を積む。

〈形成外科〉

- ○術前カンファで術式の選択、手術デザインを検討する。術中・術後の状態を撮影したデジタルカメラ像を投影し手術の確認を行い適正に行われたか、問題点がなかったかについて検証する。
- ○新着英文雑誌より興味ある内容の論文を選択し、抄読会を行う。
- ○週1回病棟の褥瘡患者を回診し、その治療法について検討する。また褥瘡の予防法を学び院内で の有病率低下に努める。

〈口腔外科〉

- ○睡眠時無呼吸症候群に対して歯科としての治療介入について。
- ○顎変形症患者における術前のモデルオペについて。
- ○顎骨再建におけるデンタルインプラントの有用性について。

〈心臓血管外科〉

○心臓血管外科 専門領域としてのスペシャリティ領域について大血管 冠動脈 僧帽弁形成

大動脈弁形成 TAVI ステントグラフト大動脈解離 人工血管置換 等 ガイドライン哉再診論 文を交えて解説する。

- ○医学論文を書く上で最低限身に着けておきたい医学統計について実例を交えながら解説する。
- ○実際のブタの心臓を用いて、冠動脈吻合の実際哉人工血管置換術弁置換術を行い、解剖や手技 の解説をし知識を深める。
- ○心臓血管外科手術手技(開胸・ITA採取・人工心肺カニュレーション・人工血管吻合)に関して、手技をやり始めた若手を中心として方法・コツ等について討論する。

〈産婦人科〉

- ○産科ガイドライン、婦人科ガイドライン、超音波診断、不妊外来の現況 最新医療。
- ○周産期医療、小児科 新生児科との連携。
- ○放射線治療内容の確認 臨床試験の確認。

〈耳鼻咽喉科〉

○入院症例ならびに問題がある外来症例についてのカンファランス。放射線科と合同で、放射線 治療例の検討等も行う

〈眼科〉

- ○眼科疾患一般に関する研究会
- ○黄斑部疾患や緑内障に関する講師を外部から呼んで開催

〈リハビリテーション科〉

- ○その週の新患患者についてプレゼンテーションを行い治療方針を検討する。
- ○がんの骨転移を有する患者の治療方針を多職種で検討する。

〈精神神経科〉

- ○病棟患者すべての入院後経過を共有し、治療方針、問題点等を検討する。同時に、行動制限の 適切性なども協議し、医療倫理や法的順守の重要性についても研修を行う。
- ○特定の患者の診断、治療方針、退院支援等について、生活歴や家族歴、経過、病棟生活の様子などをもとに多職種(医師、看護師、薬剤師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士)で検討を行う。精神疾患や検査・治療に関する最新の医学知識に加え、患者の生活を支える社会的視点も学ぶ。
- ○入院患者の病状、生活状況、入院生活上の問題点が看護師中心に話し合われるが、医師として参加し、その立場からの見解を提示する。協議内容を治療に生かすことで臨床スキルの向上を目指すとともに、多職種協働医療の在り方を研修する。
- ○精神神経科に所属する全医師の研究発表、および外部講師による勉強会を行っている。なお、 勉強会ではトピックスから所属医師が希望する内容まで精神医学全般に渡って幅広く行われてい るのが特徴である。

〈小児科〉

- ○小児科のみならず臨床的に関連する周辺専門領域(2019年度は小児感染症、小児神経、小児放射線)の専門医より、小児臨床の周辺疾患について学ぶ。
- ○当院小児科に入院している症例について、各疾患分野の専門医を中心に症例検討をすることを 通して疾患の理解を深める。
- ○当院小児科で入院・外来で加療している神経疾患の症例について、小児神経専門医がコアとなり、検査結果を検討するとともに、今後の診断・治療方針の討論に参加し、小児神経疾患に対する理解を深める。
- ○小児アレルギー分野における知識を深める。
- ○小児科・産婦人科合同で入院症例のみならず、出生前症例について討論し、治療方針を決定する。

- ○帝京大学小児科で加療中の症例で、治療や診断に難渋した症例、教訓的な症例について討論する。
- ○小児科疾患の最新の薬物療法について理解を深める。
- ○シニアレジデントを主な対象とし、各診療グループのリーダーがそれぞれの分野で習得すべき 疾患の病態生理、最新の治療法を教示する。
- ○小児内分泌分野における知識を深める。

〈放射線科〉

○IVRの適応・術式、核医学の診断、放射線治療の適応・経過、教育的な症例の画像診断について 等。

〈皮膚科〉

- ○担当医が症例写真と病理組織を提示し、症例検討して診断治療方針を決定する。
- ○発疹学やカメラの取り方、各皮膚疾患まで皮膚科に関連したそれぞれの分野を担当医が新人へ 講義する。

〈救急科〉

- ○重症病態に対する疫学、治療戦略などに係る臨床研究の計画策定、研究者の研究支援、論文・報告指導について、大学院生を中心に専攻医も含めて実施している。
- ○外傷セミナー第1回:脊椎外傷、第2回小児外傷、第3回大腿骨近位部骨折
- ○救急科、外科)、整形外科、放射線科、麻酔科と合同で、当院ハイブリッドERにおいて血管内 治療や手術を行った症例に関してpeer reviewをする月例カンファレンス。医師、看護師、放射線 技師も参加する多職種多専門科カンファレンス。

〈麻酔科〉

- ○前日のすべての手術症例に関して報告し、問題点と改善すべき事項について確認する。 また 当日施行予定の手術麻酔に関する検討を行う。
- ○麻酔科学全般に及ぶ基礎的事項のレクチャー
- ○麻酔科学全般に及ぶ高度かつ先進的な話題についてのレクチャー
- ○麻酔管理上の問題点や重要な合併症を生じた事例について,背景や要因、今後の対策等について検討する。

〈病理診断科〉

- ○数件の解剖例を臨床的検索希望事項を含め、解説、協議検討を行う。
- ○10例程度の消化管疾患に対して、病理組織学的診断、臨床経過、所見などをあげ、協議や検討を行う。
- ○10例程度の呼吸器疾患に対して、病理組織学的診断、臨床経過、所見などをあげ、協議や検 討を行う
- (注)上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師 に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 258 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者	氏名 診療	科役	職	等	臨床経験年	F数	特	記	事	項
塚本 和久	内科	主任教	授		36	年				
北沢 貴利	内科	病院教	授		25	年				
上妻 謙	循環器内科	科 教授			31	年				

渡邊	·····································	循環器内科	准教授	20	年	
有賀	·····································	緩和ケア内科	主任教授	35	年	
高木	雄亮	緩和ケア内科	講師	18	年	
園生	雅弘	脳神経内科	主任教授	40	年	
神野	浩光	外科	教授	35	年	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	I. ⇔.i	LL 61	lat I-			科・小児外科含む
坂尾	幸則	外科	教授	33	年	呼吸器外科・消化器外 科・小児外科含む
+ /\ □□	±. →	서 소)	(中) ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	22	/T:	
松田	圭二	外科	病院教授	33	午	呼吸器外科・消化器外 科・小児外科含む
野澤	 慶次郎	外科	 准教授	31	在	呼吸器外科・消化器外
利	发 八四		1年4人1文	31	7	科・小児外科含む
端山	····· 軍	外科	 講師	20	年	呼吸器外科・消化器外
	—	2141	HTT POP	20	'	科・小児外科含む
深川	剛生	外科	教授	33	年	呼吸器外科・消化器外
					·	科・小児外科含む
佐野	圭二	外科	教授	32	年	呼吸器外科・消化器外
						科・小児外科含む
細田	利史	小児外科	講師	21	年	呼吸器外科・消化器外
	1,350	7 7 2 7 7 7 7	HITT			科・小児外科含む
辛 正	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	脳神経外科	主任教授	28	年	
河野		整形外科	主任教授	31	年	
			<	{		
	健太郎	整形外科	助教	20	年	
今水流		心臟血管外科	准教授	27	年	
内山	雅照	心臟血管外科	助教	17	年	
中川	徹	泌尿器科	主任教授	28	年	
緒方	直史	リハビリテーシ	主任教授	30	年	
		ョン科				
功刀	浩	精神神経科	主任教授	36	年	
渡邊由		精神神経科	 講師	19	年	
小室	· 裕造	形成外科	主任教授	36	' 年	
大河内		形成外科	病院教授	27	年	
有坂	岳大	口腔外科	講師	19	年	
多田	弥生	皮膚科	主任教授	12	年	
田中	隆光	皮膚科	講師	12	年	
溝田	淳	眼科	主任教授	38	年	
伊藤	 健	耳鼻咽喉科	主任教授	34	年	
三牧	正和	小児科	主任教授	28	年	
			<			
小林	茂俊	小児科	教授	35	年	
伊藤		小児科	講師	28	年	
磯島	豪	小児科	講師	22	年	
大場	洋	放射線科	主任教授	37	年	
近藤	浩史	放射線科	教授	24	年	
神長	達郎	放射線科	病院教授	34	年	
白石	憲史郎	放射線科	病院教授	23	' 年	
	一憲					
長阪		産婦人科	主任教授	22	年	
柿沼	玲 史	麻酔科	病院准教授	25	年.	
原	ラ樹 こうしゅう	麻酔科	教授	35	年	<u> </u>

J12 /	京浩	麻酔科	教授	34	年	
森村	尚登	救急科	主任教授	37	年	
伊藤	香	救急科	講師	21	年	
笹島	ゆう子	病理診断科	主任教授	26	年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている 診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

- ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況(任意)
 - ・研修の主な内容(薬剤部)
 - ○薬剤部員会議・研修会 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 4回
 - ・研修の主な内容(中央検査部)
 - ○感染症領域検査研究会 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 1回 研修の参加人数:9 名
 - ・研修の主な内容(中央検査部)
 - ○臨床化学検査研究班研修会 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 3回 研修の参加人数:10 名
 - ・研修の主な内容(輸血部)
 - ○日本組織適合性学会大会 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 1回 研修の参加人数:2 名
 - ○日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022 年3月31日 1回 、研修の参加人数:3 名
 - ・研修の主な内容(中央放射線部)
 - ○日本放射線技術学会総会学術大会 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 1回 、研修の参加人数:5 名
 - ・研修の主な内容(栄養部)
 - ○日本病態栄養学会年次学術集会

研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 2回

研修の参加人数:7 名

- ・研修の主な内容 (病院病理部)
 - ○東京都医学検査学会

研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 1回

研修の参加人数:6 名

- ・研修の主な内容(リハビリテーション部)
 - ○日本心臓リハビリテーション学会学術集会総会 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 1回 研修の参加人数:7 名
 - ○日本心臓リハビリテーション学会学術集会総会

研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 1回 研修の参加人数:16 名

- ② 業務の管理に関する研修の実施状況(任意)
 - ・研修の主な内容 (ME部)
 - ○日本臨床工学会 医療機器の液晶ディスプレイ劣化調査、除細動器のパッド使用統一の取り組み 等 、研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 1回 研修の参加人数:3 名
 - ・研修の主な内容(薬剤部)
 - ○薬剤部新入職員研修(同種・同効薬 等) 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022 年3月31日 44回、研修の参加人数:127 名
 - ・研修の主な内容(中央検査部)
 - ○生理機能検査室部門教育 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 16回 研修の参加人数:137 名
 - ○生化免疫検査室部門教育 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 2回 研修の参加人数:17 名
 - ○一般検査室部門教育 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 4回 研修の参加人数:20 名
 - ○微生物検査室部門教育 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 3回 研修の参加人数:24 名
 - ・研修の主な内容(中央放射線部)
 - ○撮影技術指導カンファレンス 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 25回、研修の参加人数:167 名
 - ・研修の主な内容(栄養部)
 - ○部内勉強会 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 15回 研修の参加人数:126 名以上
 - ・研修の主な内容 (病院病理部)
 - ○部署内勉強会 研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 5回 研修の参加人数:27 名
 - ・研修の主な内容 (リハビリテーション部)
 - ○勉強会

研修の期間・実施回数:2021年4月1日~2022年3月31日 31回 研修の参加人数:744 名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数
- (注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。
- (注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	診療録 小笠原 后香
管理担当者氏名	和久 正志・稲垣 宏治・小久保 真

			保管場所	管 理 方 法
診療に関	に規	病院日誌	総務課	診療録の持ち出しは原
する諸記	据 川	各科診療日誌	総務課	則禁止している。やむを
録	げ第	処方せん	薬剤部	得ず持ち出す場合は、個
	る二	手術記録	医療システム部	人情報管理統括責任者
	事十	看護記録	医療システム部	(病院長)の承認を必要
	対第二十二条の	検査所見記録	医療システム部	とする。持ち出しは記録
	()	エックス線写真	医療システム部	を行い、保管管理する。
	三第	紹介状	医療システム部	
	第	退院した患者に係る入院期間中	医療システム部	
	項	の診療経過の要約及び入院診療		
	垻	計画書		
病院の管	二規	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
理及び運	三規項則	高度の医療の提供の実績	各科診療科・総務課	
営に関す	に第	高度の医療技術の開発及び評価	IJ	
る諸記録	掲げる事で	の実績		
	リスエ	高度の医療の研修の実績	<i>II</i>	
	事条	閲覧実績	総務課	
	項の	紹介患者に対する医療提供の実	医療連携室	
	三第	積		
	第	入院患者数、外来患者及び調剤	医事保険課・医療サービス課	
		の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
	に規	医療に係る安全管理のための指	安全管理部	
	掲則	針の整備状況	総務課	
	げ第る一	医療に係る安全管理のための委員会の関係は温	安全管理部	
	事条	員会の開催状況 医療に係る安全管理のための職	総務課 安全管理部	
	項の	員研修の実施状況	女生官	
	+	医療機関内における事故報告等		
	左	の医療に係る安全の確保を目的	※	
	第一	とした改善のための方策の状況	小 心 4万 4八	
	項			

			保管場所	管	理	方	法
病院の管	規 則	院内感染対策のための指針の策 定状況	感染制御部 総務課				
理及び運	第一	院内感染対策のための委員会の 開催状況	感染制御部 総務課				
営に関す	条の	従業者に対する院内感染対策の ための研修の実施状況	感染制御部 総務課				
る諸記録	+ -	感染症の発生状況の報告その他 の院内感染対策の推進を目的と	感染制御部 総務課				
	第二元	した改善のための方策の実施状況					
	項第	医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課				
	一号かれ	従業者に対する医薬品の安全使 用のための研修の実施状況	安全管理部 薬剤部 総務課				
	ら第三号	医薬品の安全使用のための業務 に関する手順書の作成及び当該 手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 総務課				
	までに掲げる	医薬品の安全使用のために必要 となる未承認等の医薬品の使用 の情報その他の情報の収集その 他の医薬品の安全使用を目的と した改善のための方策の実施状 況	総務課 薬剤部(DI室) 安全管理部				
	事項	医療機器安全管理責任者の配置 状況	総務課				
		従業者に対する医療機器の安全 使用のための研修の実施状況	ME部 中央放射線部 総務課				
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部 中央放射線部 管財課				
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部 中央放射線部 管財課				

			保管場所	管	理	方	法
病院の管理		医療安全管理責任者の配置状	総務課			/-/	1
及び運営に	#1	況	11-2 300 1914				
関する諸記	則	専任の院内感染対策を行う者	総務課				
録	第	の配置状況	1 = 27				
	九	医薬品安全管理責任者の業務	薬剤部				
	条の	実施状況					
	\mathcal{O}	医療を受ける者に対する説明	総務課				
	+	に関する責任者の配置状況					
	\mathcal{O}	診療録等の管理に関する責任	総務課				
	<u>-</u>	者の選任状況					
	第	医療安全管理部門の設置状況	総務課				
	項	高難度新規医療技術の提供の	安全管理部				
	第	適否等を決定する部門の状況	総務課				
	_	未承認新規医薬品等の使用条	安全管理部				
	号	件を定め、使用の適否等を決	総務課				
	か	定する部門の状況					
	ら第	監査委員会の設置状況	総務課				
	R 十1	入院患者が死亡した場合等の	安全管理部				
	豈	医療安全管理部門への報告状					
	三号ま	況					
		他の特定機能病院の管理者と	安全管理部				
	で及	連携した相互立入り及び技術	感染制御部				
	びび	的助言の実施状況					
	第	当該病院内に患者からの安全	患者相談室				
	+	管理に係る相談に適切に応じ	安全管理部				
	五	_ ,, ,, , ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,,					
	条の		総務課				
	四四	疑義が生じた場合等の情報提					
	各	供を受け付けるための窓口の					
	各号	状況					
	に	職員研修の実施状況	総務課				
	掲げ	管理者、医療安全管理責任者	総務課				
	げる	、医薬品安全管理責任者及び					
	車	医療機器安全管理責任者のた					
	項	めが明修り天旭仏化	t 11 = 1				
		管理者が有する権限に関する	総務課				
		状况	N. L. L.				
		管理者の業務が法令に適合す	法人本部				
		ることを確保するための体制					
		の整備状況	N.I. I. L.				
		開設者又は理事会等による病	法人本部				
		院の業務の監督に係る体制の					
(注)「診療に	- L	整備状況		-,,,			

⁽注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理 方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載する こと。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	小笠原 后香(専任·診療録管理)
閲覧担当者氏名	和久 正志・稲垣 宏治・小久保 真
閲覧の求めに応じる場所	•診療情報管理部•閲覧室

閲覧の手続の概要

様式第5に記載の通り、「病院の管理及び運営に関する諸記録」はそれぞれの担当管理部署で適正に保管しているため、医師や歯科医師等から依頼があった場合には、全体の窓口は総務課となる。依頼用紙に記入してもらい、閲覧室内で対応する。

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に〇印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

	前	年	度	の	総	閲	覧	件	数	延	0	件	
閲	覧	者	別						医師	延	0	件	
								1	歯科医師	延	0	件	
									国	延	0	件	
								地フ	方公共団体	延	0	件	

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	❸・無					
・ 指針の主な内容:						
1. 安全管理に関する基本的な考え方 2. 安全管理委員会その他の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした、事故報告書にもとづく改善策の立案、実施に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 病院職員と患者の情報共有に関する基本方針 7. 患者と家族への説明と同意に関する基本方針 8. 患者と家族等からの相談への対応に関する基本方針 9. 高難度新規医療技術の導入に関する基本指針 10. 安全管理対策に関する指針および安全管理マニュアルの見直しと周知の方針						
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況						
・ 設置の有無 (つ ・無) ・ 開催状況:年 12 回 ・ 活動の主な内容: (1)安全管理対策の推進 (2)医療事故発生防止のために平時より次の事項を行う。 ① 下医療安全に関する情報収集 ② 医療安全に係わる職員教育 ③ 事故発生防止策と施設・設備の改善計画の立案 ④ 事故発生防止策の実施状況の調査と必要に応見直し ⑤ 医療安全に係わるモニタリング項目の策定 (3) 当院において重大な問題その他本委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合に次の事項を行う。 ①原因究明のための調査および指導 ③ 患者、家族等への対応状況の確認および指導 ③ 患者、家族等への対応状況の確認および指導 ④ 再発予防策の実施の状況の確認および指導 ④ 再発予防策の実施の状況の確認および指導 ④ 有発予防策の支施の状況の確認との問知徹底 ⑤ 有発予防策の実施の状況の間重なる水準以上の事例の確認と確認結果の管理者への報告および職員への研修・指導 (5)特定機能病院間相互のピアレビューの結果報告に基づく改善策の立案						
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 11 回					
研修の内容(すべて):						
別紙 8 参照						
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施 状況						
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (旬・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容:						

安全管理委員会において事故の事例分析および発生要因の分析を行い 、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況

旬・無

- ・ 指針の主な内容:
- 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方
- 2. 院内感染対策のための委員会および組織に関する基本事項
- 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針
- 4. 院内感染発生状況の報告に関する基本方針
- 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針
- 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針
- 7. 院内感染対策のための指針および院内感染対策要綱の見直しと周知の方針

② 院内感染対策のための委員会の開催状況

年 12 回

- 活動の主な内容:
- 1. 院内感染状況を監視、調査するとともに、対策を立案し、その拡大を防止するための具体策を関係方面に提言するとともに、対策の実施について病院長および感染制御部長に具申する。
- 2. 周知すべき感染症の情報を院内諸方面に伝達する。
- 3. その他、院内感染予防のために必要な業務を行う。
- ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

年 6 回

研修の内容(すべて):

別紙 9 参照

- ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況
 - ・ 病院における発生状況の報告等の整備

(**旬**・無)

・ その他の改善のための方策の主な内容:

感染制御部・感染制御委員会において感染症発生要因の分析を行い、改善策を立案し、各部署・職員 に対し周知徹底する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る 措置

1	医薬品安全管理責任者の配置状況	a ·無
2	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回

研修の主な内容:

別紙 10 参照

- ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況
 - (**旬**・無) 手順書の作成
 - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容:
 - 1. 医薬品の採用・購入に関する事項
 - 2. 医薬品の管理に関する事項
 - 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項
 - 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 病棟における医薬品の管理に関する事項

 - 6. 入院患者への医薬品使用に関する事項
 - 7. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項
 - 8. 他施設との連携に関する事項
 - 9. 院内製剤に関する事項
 - 10. 放射性医薬品に関する事項
- 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況
 - (**旬・**無) 医薬品に係る情報の収集の整備
 - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば):モーズ軟膏、Triquilar(Levonoegestrel and Ethinyloestradiol Tablets IP)

モーズ軟膏:乳がん浸潤による皮膚潰瘍の汚臭、止血効果を目的に使用 Triquilar:月経不順・月経痛のため患者自身で購入し持参薬として持ち込み

その他の改善のための方策の主な内容: 未承認医薬品のみならず、医薬品の禁忌・適応外使用においては、患者への説明・同意に 関するカルテ記載等についても薬剤師が確認し、必要に応じ医師に疑義を行っている。

また、職員メールでも注意喚起を行っている。

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係 る措置

1	医療機器安全管理責任者の配置状況	a ·無
2	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 144 回 (全体研修1回)

- 研修の主な内容:
- ・人工呼吸器、人工心肺および補助循環装置、血液浄化装置、除細動器(AED)を除く、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置に対して定期研修を計画・実施し、 実施状況を毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。
- 新規導入機器に対しての研修会:136回既存機器に対する研修会:7回

全体研修:別紙 11 参照

- ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況
 - (**旬・**無)
 - 医療機器に係る計画の策定 機器ごとの保守点検の主な内容:

前年度の3月までに点検計画策定を行い、医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任 者の承諾を取り新年度より実施する。実施状況を毎月に医療機器安全管理員会にて医療機器安 全管理責任者へ報告している。

保守点検の主な内容

- 1)使用前、使用中、使用後の点検 2)定期点検および年次点検(医療機器ごとに機関を設定し、メーカー依頼している。)
- 3) 点検方法は各医療機器の取扱説明書を参考に実施。
- ④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況
 - (**旬・**無
 - その他の改善のための方策の主な内容:
 - ・医療機器安全使用のために必要な情報の収集・取扱説明書と添付文書を電子カルテへ掲示・メーカーからの情報提供やインターネットからPMDA、医療安全情報などを収集し、安全管理部及び安全管理委員会と連携し、電子カルテインフォメーション、医療機器安全研修会にて通達、 報告している。
 - ・その他の改善のための方策・毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器の不具合事象の報告 ・安全管理部及び安全管理委員会と連携し改善と対策をしている。
- (注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況

旬・無

- 責任者の資格(<u>医師</u>・歯科医師)医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医 療機器安全管理責任者の統括状況

医療安全管理責任者は安全管理担当副院長が担っており、安全管理担当副院長は安全管理委員会委 員長及び、安全管理部員を務めている。医薬品安全管理責任者及び、医療機器安全管理責任者は安 全管理部に所属し、安全管理委員会において活動状況を報告している。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況

(a) (8名)·無

- ③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況
- ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

医薬品安全管理責任者は、医薬品の安全使用状況を把握するために薬剤部内に所属する全ての薬剤 師を指名し、以下の業務を確認する。

医薬品情報室の薬剤師が、病棟を担当する薬剤師を通じて院内の医薬品の使用状況を定期的に(1 カ月に1回)確認し、その結果を踏まえて添付文書情報(禁忌等)、緊急安全性情報、未承認医薬品 の使用時または医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結 果を医薬品安全管理責任者に報告する。

医薬品安全管理責任者は、報告された情報を踏まえ、安全管理部長に報告するとともに、必要に応 じて医薬品の適正使用のための注意喚起情報を、医薬品情報室を通じて周知する。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

薬剤師等の医療従事者は、未承認の医薬品等(治験等を除く)の使用、医薬品の適応外・禁忌等に 該当する処方または指示を見いだした場合、薬剤部医薬品情報室に報告する。また、必要に応じて、 処方医等に当該処方または指示の必要性やリスク検討の有無、妥当性等を確認し、指導を行い、その 内容を診療録に記載する。

医薬品安全管理責任者は、薬剤部医薬品情報室に報告された、未承認の医薬品等(治験薬を除く) の使用、医薬品の適応外・禁忌等に該当する処方または指示に関する情報を定期的に(1カ月に1回) 確認し、必要に応じて、処方医等への指導を行うとともに、未承認の医薬品等(治験薬を除く)の使 用に関して必要な情報を、医薬品情報室を通じて周知する。

- ・担当者の指名の有無(何・無)
- 担当者の所属・職種:

(所属:薬剤部(医薬品情報室責任者),職種:薬剤師) (所属:薬剤部(病棟担当責任者,職種:薬剤師)

(所属:薬剤部(調剤・製剤・注射管理部門担当責任者、職種:薬剤師)

(所属:薬剤部(化学療法部門担当責任者,職種:薬剤師)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

看·無

- ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する 規程の作成の有無 (**句**・無)
- ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容
- : 診療情報管理部と連携して、定められた書式を用いて適正な手順で説明を行っているか、診療録に IC 記録(テンプレート)があるか点検を行っている。
- :研修会にてインフォームドコンセントの正しい手順について指導を行っている。
- : 改善が必要な診療科に対してインフォームドコンセント管理責任者が指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容:

別紙 12 参照

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

旬・無

所属職員: 専従(7)名、専任(1)名、兼任(23)名

うち医師: 専従(1)名、専任(1)名、兼任(15)名

うち薬剤師: 専従(1)名、専任(0)名、兼任(1)名

うち看護師: 専従(2)名、専任(0)名、兼任(2)名

- (注)報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること
- ・活動の主な内容:
- (1) 安全管理対策の推進
- (2) 安全管理部会および臨時の安全管理委員会の開催
- (3) リスクマネージャー会議を開催し、安全管理委員会で決定された事項の周知徹底
- (4) 医療安全対策の推進
- (5) 医療事故発生防止のための情報収集と教育
- (6)医療安全に資する診療内容および従業者の医療の安全に関する意識の向上のモニタリング

【モニタリング項目:死亡事例、口頭指示、手術時の出血、カテーテル挿入、緊急蘇生チーム要請、 Rapid Response Team (RRT) 要請、転倒転落事例】

- (7)院内各部署への立ち入り調査と関係書類の調査
- (8) 安全管理に関わる関係部署との連絡調整
- (9) 医療事故発生防止のための対策の立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査
- (10) 特定機能病院間相互のピアレビュー実施および結果報告
- (11)発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案および実施
- (12) 発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導
- (13) 発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導
- (14) 発生した医療事故の原因の究明および指導
- (15)発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底
- (16) 安全管理委員会、安全管理部会、リスクマネージャー会議の資料および議事録の作成並びに 保存等の庶務に関すること
- (17) 全ての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集および管理者への報告
- (18) 研究に関わる有害事象報告について臨床試験・治験統括センターへの情報提供
- (19) 高難度新規医療技術評価係を設置し、高難度医療技術(その実施により患者の死亡その他の 重大な影響が想定される医療技術をいう。以下同じ。)を用いた医療の提供に関する経験お よび知識を有する医師または歯科医師を責任者として、高難度新規医療技術の実施の適否を 判断すること
- (20)未承認新規医薬品等評価係を設置し、部員の医薬品安全管理責任者を責任者として、未承認 新規医薬品等を用いた医療の提供を判断すること
- (21)適応外医薬品等評価係を設置し、部員の医薬品安全管理責任者を責任者として、適応外医薬 品等を用いた医療の提供を判断すること
- ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に
- 係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識に ついての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。
- ⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況
- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数 (43 件) 、及び許可件数 (42 件)
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無(句・無)
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療 技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(句・無)
- 活動の主な内容:

各診療科からの下記確認事項(①~⑤)の申請に対し、高難度新規医療技術評価委員会に導入の適 否、実施を認める条件等について意見聴取。その委員会の意見を踏まえ提供の適否判定を行い、診 療科長および病院長へ結果通知。提供後、および以降定期的に(3ヵ月後、6ヵ月後、1年後)実施 報告内容の確認を行う。

- ①患者の病態等を踏まえた既存技術の限界・問題点
- ②高難度新規医療技術と既存の医療技術とを比較した場合の優位性

(合併症の重篤性及び発生の可能性等の安全性の観点を含む)

- ③当該高難度新規医療技術を用いた医療を提供する医師又は歯科医師その他の従業員の高難度 医療技術を用いた医療の提供に関する経験
- ④必要な設備・体制の整備状況 (集中治療室、麻酔科医師、看護師との連携等)
- ⑤患者に対する説明及び同意の取得の方法
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(旬・無)
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無(旬・無)
- ③ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況
- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (252 件) 、及び許可件数 (252 件)
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無(句・無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬 品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有

無 (**旬**・無)

活動の主な内容:

各診療科からの下記確認事項(①~⑤)の申請に対し、未承認新規医薬品等評価委員会に使用の適否、実施を認める条件等について意見聴取。その委員会の意見を踏まえ使用の適否判定を行い、診療科長および病院長へ結果通知。使用後、および以降定期的に(3ヵ月後、6ヵ月後、1年後)実施報告内容の確認を行う。

- ①患者の病態等を踏まえた既存医薬品等の限界・問題点
- ②当該未承認新規医薬品等と既存の医薬品等を比較した場合の優位性 (予測される有害事象の重篤性、頻度等の安全性等の観点を含む)
- ③未承認新規医薬品等の使用条件(使用する医師又は歯科医師の制限等)
- ④当該未承認新規医薬品等の使用に起因するものと疑われる有害事象の把握の方法
- ⑤患者に対する説明及び同意の取得の方法
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(を)・無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (句・無)
- ⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況
- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況:年 835 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況: 年 178 件
- 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

すべての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集状況の確認と確認結果の管理者への報告 および職員への研修・指導

- ⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
- ・他の特定機能病院等への立入り(句 (病院名:近畿大学病院)・無)
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ(句 (病院名:近畿大学病院)・無)
- 技術的助言の実施状況
 - ※COVID-19 感染拡大防止のため相互訪問は行わず、自己評価票に関する確認事項・質問事項のやり取りをWEB 形式で実施した。
- ① 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
- ・体制の確保状況

別紙 13 参照

① 職員研修の実施状況

研修の実施状況

2021年6月11日「安全管理に関する研修会」

高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等、適応外医薬品等について

2021 年 11 月 9 日 「治験・臨床研究および個人情報保護に関する研修会開催について」

個人情報保護について

2021年12月6日「医療安全に関する研修会開催について」

ヒヤリハット・アクシデント報告

2022 年 3 月 16 日「職員研修会について」

病院機能評価について

- (注)前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1 日の員数を記入すること)
- ③ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修 の実施状況
- 研修の実施状況

管理者

2021年12月23日(木)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医療安全管理責任者

2021年11月22日(月)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医薬品安全管理責任者

2021年11月22日(月)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医療機器管理責任者

2022年1月19日(水)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

(注) 前年度の実績を記載すること

(4) 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2012年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2(Ver. 6.0)を受審後認定

2017年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2(3rdG Ver. 1.1)を受審後認定(現在継続中)

2022 年 6 月に特定機能病院に新たに設けられた一般病院 3 (3rdG Ver. 2) を受審

中間的な結果報告を8月10日に日本医療機能評価機構から受理。補充的な審査を受けるべくC評価に対する改善の取組み中である。(C評価項目 2.1.2診療記録を適切に記載している)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

日本医療機能評価機構の補充的審査の結果を踏まえ、今後対応予定である。

・評価を踏まえ講じた措置

2022 年

8月10日 診療録記載改善委員会で改善案を策定

8月17日 運営会議で改善案を承認

8月24日 病院機能評価準備委員会で周知、診療科長・グループ長に文書にて通知

9月7日 全職員研修会で改善案を周知

9月13日 診療連絡委員会にて改善案を周知

(注)記載時点の状況を記載すること

医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(2021年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
			医師 121 名	
新入職員	2021年4月1日(木)	8:30~13:00	看護職員 114名	安全管理体制について
オリエンテーション		0.00 10.00	医療技術員 10名	
			事務職員 14名	
				ヒューマンエラーと医療安全
				高難度・未承認、死亡報告、死亡報告書の書き方について
	2021年4月1日(木)			院内急変への対応
吃产亚皮医甘林亚皮	~	9:00~17:00(平日)	711 Mg (FE 00 AZ	医療事故防止
臨床研修医基礎研修	2021年4月19日(月)	9:00~12:30(土曜)	研修医 30 名 	患者確認実習
	2021年4月26日(月)			ヒヤリハット・アクシデント報告について レジリエントヘルスケア(成功から学ぼう)
				医薬品安全情報について
				院内暴力について
				事故防止総論
				指示簿の見方、患者認証、サインの方法
				転倒·転落防止対策
======================================	2021年4月1日(木)	8:30~17:00(平日)		チューブトラブル防止対策
看護師新入職者 研修会	~ 2021年5月31日(月)	8:30~17:00(中日)	看護師 114名	内服について
柳珍云	ほか			酸素ボンベの取扱い
				注射、点滴、採血、BSチェックについて
				インスリンについて
				輸血について
				ヒヤリハット・アクシデント報告
				麻薬の取扱いについて
				患者間違いについて
				血液型クロス採血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10~12:45	研修医 59 名	転倒転落防止について
				コミュニケーションエラーについて
				医療事故調査制度について
				個人情報の管理について 生体監視モニターについて
				注 作
医師事務作業補助者研修会	2021年6月24日(木)	9:00~10:30	6名	医療事故防止について
M&Mカンファレンス	2022年3月2日(水)	17:30 -18:10	33名	複数診療科が係る事例検討
				安全管理マニュアルポケット版について
医療安全および 感染対策に関する研修会	2021年6月11日(金) ほかDVD配布	17:30-18:30	2,296名	高難度・未承認・適応外について 医薬品の安全使用について
心术为术门以为证明的	18% 5 4 5 40 11			[テスト実施]
				ヒヤリハット・アクシデント報告
医療安全に関する	2021年12月6日(月)	17.20 10.20	0.000	輸血関連のヒヤリハット・アクシデント 医薬品の安全使用について
研修会	ほかDVD配布	17:30-18:30	2,269名	医療機器の安全使用について
				[テスト実施]
				インフォームド・コンセント
 医療安全に関する				医療放射線の安全使用について
研修会 である	2022年2月17日(木)	17:30-18:30	2,241名	レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止および影響軽減を! 2021年グッドリカバリー賞
			医師 21名	医療安全について (採用日の業務開始前に安全管理マニュアルポケット版の内容
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、DVD配布		事務職員 5名	に基づいたテスト問題の実施、新入職員オリエンテーションの
			看護助手 2名	DVD視聴)
				(2021年5月~) 患者影響レベル分類、医療事故の報告、個人情報、災害発生時
				の対応、患者確認、身体抑制、生体監視モニター、コンセントの
				色分け、COVID-19関係、インフォームドコンセント、臨床倫理、
				医薬品、医療機器、高難度・未承認・適応外、病理・放射線レポート、輸血、急変時対応
				(2021年10日本)
医療安全e-Learning				(2021年10月~) RRS、緊急蘇生チーム、急変時対応、安全管理指針、安全管理
				体制、安全文化、ヒヤリハット・アクシデント報告、患者影響レベ
				ル分類、患者影響レベル別対応、重大アクシデント発生時の対 応、FAX誤送信防止、COVID-19関係、
				(2022年1月~) 安全文化の醸成、患者影響レベル分類、医療安全情報、死亡診
				断書·死体検案書、医療事故調査制度、急変時対応、緊急時口
				頭指示、虐待対応、転倒・転落、院内暴力対応、薬剤

別紙 院内感染対策に関する職員研修(2021年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員オリエンテーション	2021年4月1日(木)	8:40~13:00	医師 121 名 看護職員 114 名 医療技術員 10 名 事務員 14 名	院内感染対策について (4月1日(木) 10:10 ~ 10:55)
看護師 新入職者研修会	2021年4月1日(木)	8:30~17:00(平日)	看護師 114 名	感染防止対策総論 (4月1日(木) 14:40 ~ 15:10)
研修医基礎研修	2021年4月1日(木) { 2021年4月19日(月) 2021年4月26日(月)	9:00~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医30名	感染症対策について (4月15日(木) 13:00 ~ 14:00) 感染症診療について (4月15日(木) 14:10 ~ 15:10)
院内感染対策 講習会 第1回 (DVD講習含む)	2021年6月11日(金)	17:30~18:30	2,296名	「院内感染対策要綱ポケット版の改訂点と活用術」 講師: 感染制御部 看護師 冬室純子 「抗菌薬による電解質異常について」 講師: 感染制御部 薬剤師 足立匠 「当院における新型コロナウイルス感染症対応事例」 講師: 感染制御部 看護師 菊池智美
ストップ感染デー 院内感染対策講習会 第2回 DVD講習	2021年9月1日(水)	17:30~18:30	2,302名	「そもそもストップ感染デーって?」 講師: 感染制御部 医師 松永直久 「MBL産生菌感染症への取り組み」 講師: 11 東病棟 看護師 井上祐未 「MBL産生菌感染症への取り組み ~医師の立場から~」 講師: 外科医師 熊田宜真 「MRSAのアウトブレイクから得たこと ~日々の感染対策を見直す~」 講師: NICU病棟 看護師 西田由紀子 「NICU・GCUにおける MRSA多発例の対応について」 講師: 小児科医師 伊藤直樹 「コロナもストップ!」 講師: 感染制御部 医師 松永直久
院内感染対策 講習会 第3回 (DVD講習含む)	2022年1月11日(火)	17:30~18:30	2,254名	「2021年度を振り返る」 講師:感染制御部 医師 竹澤智湖 「当院における抗菌薬の適正使用への取り 組みについて」 講師:感染制御部 薬剤師 柴田裕介

医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(2021年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員 オリエンテーション	2021年4月1日(木)	8:30~13:00	医師 121名 看護職員 114名 医療技術員 10名	安全管理体制について
7727 732			医療技術員 10名	
臨床研修医基礎研修	2021年4月1日(木) ~ 2021年4月19日(月) 2021年4月26日(月)	9:00~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 30 名	ヒューマンエラーと医療安全 高難度・未承認、死亡報告、死亡報告書の書き方について 院内急変への対応 医療事故防止 患者確認実習 ヒヤリハット・アクシデント報告について レジリエントヘルスケア(成功から学ぼう) 医薬品安全情報について 院内暴力について
看護師新入職者 研修会	2021年4月1日(木) 〜 2021年5月31日(月) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜)	看護師 114名	事故防止総論 指示簿の見方、患者認証、サインの方法 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服について 酸素ボンベの取扱い 注射、点滴、採血、BSチェックについて インスリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10~12:45	研修医 59 名	ヒヤリハット・アクシデント報告 麻薬の取扱いについて 患者間違いについて 血液型クロス採血について 転倒転落防止について コミュニケーションエラーについて 医療事故調査制度について 個人情報の管理について 生体監視モニターについて 臨床研修医リスクマネージャーによるインシデント・アクシデント事例の分析
医師事務作業補助者研修会	2021年6月24日(木)	9:00~10:30	6名	医療事故防止について
M&Mカンファレンス	2022年3月2日(水)	17:30 -18:10	33名	複数診療科が係る事例検討
医療安全および 感染対策に関する研修会	2021年6月11日(金) ほかDVD配布	17:30-18:30	2,296名	安全管理マニュアルポケット版について 高難度・未承認・適応外について 医薬品の安全使用について [テスト実施]
医療安全に関する 研修会	2021年12月6日(月) ほかDVD配布	17:30-18:30	2,269名	ヒヤリハット・アクシデント報告 輸血関連のヒヤリハット・アクシデント 医薬品の安全使用について 医療機器の安全使用について [テスト実施]
医療安全に関する 研修会	2022年2月17日(木)	17:30-18:30	2,241名	インフォームド・コンセント 医療放射線の安全使用について レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止および影響軽減を! 2021年グッドリカバリー賞 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、DVD配布		医師 21名 医療技術員 6名 事務職員 5名 看護助手 2名	医療安全について (採用日の業務開始前に安全管理マニュアルポケット版の内容に基づいたテスト問題の実施、新入職員オリエンテーションのDVD視聴)
医療安全e-Learning				(2021年5月~) 患者影響レベル分類、医療事故の報告、個人情報、災害発生時の対応、患者確認、身体抑制、生体監視モニター、コンセントの色分け、COVID-19関係、インフォームドコンセント、臨床倫理、医薬品、医療機器、高難度・未承認・適応外、病理・放射線レポート、輸血、急変時対応 (2021年10月~) RRS、緊急蘇生チーム、急変時対応、安全管理指針、安全管理体制、安全文化、ヒヤリハット・アクシデント報告、患者影響レベル分類、患者影響レベル別対応、重大アクシデント発生時の対応、FAX誤送信防止、COVID-19関係、 (2022年1月~) 安全文化の醸成、患者影響レベル分類、医療安全情報、死亡診断書・死体検案書、医療事故調査制度、急変時対応、緊急時口頭指示、虐待対応、転倒・転落、院内暴力対応、薬剤

医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(2021年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員 オリエンテーション	2021年4月1日(木)	8:30~13:00	医師 121名 看護職員 114名 医療技術員 10名 事務職員 14名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	2021年4月1日(木) ~ 2021年4月19日(月) 2021年4月26日(月)	9:00~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 30 名	ヒューマンエラーと医療安全 高難度・未承認、死亡報告、死亡報告書の書き方について 院内急変への対応 医療事故防止 患者確認実習 ヒヤリハット・アクシデント報告について レジリエントヘルスケア(成功から学ぼう) 医薬品安全情報について 院内暴力について
看護師新入職者 研修会	2021年4月1日(木) 〜 2021年5月31日(月) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜)	看護師 114名	事故防止総論 指示簿の見方、患者認証、サインの方法 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服について 酸素ボンベの取扱い 注射、点滴、採血、BSチェックについて インスリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10~12:45	研修医 59 名	にヤリハット・アクシデント報告 麻薬の取扱いについて 患者間違いについて 血液型クロス採血について 転倒転落防止について コミュニケーションエラーについて 医療事故調査制度について 個人情報の管理について 生体監視モニターについて 臨床研修医リスクマネージャーによるインシデント・アクシデント事例の分析
医師事務作業補助者研修会	2021年6月24日(木)	9:00~10:30	6名	医療事故防止について
M&Mカンファレンス	2022年3月2日(水)	17:30 -18:10	33名	複数診療科が係る事例検討
医療安全および感染対策に関する研修会	2021年6月11日(金) ほかDVD配布	17:30-18:30	2,296名	安全管理マニュアルポケット版について 高難度・未承認・適応外について 医薬品の安全使用について [テスト実施]
医療安全に関する 研修会	2021年12月6日(月) ほかDVD配布	17:30-18:30	2,269名	ヒヤリハット・アクシデント報告 輸血関連のヒヤリハット・アクシデント 医薬品の安全使用について 医療機器の安全使用について [テスト実施]
医療安全に関する 研修会	2022年2月17日(木)	17:30-18:30	2,241名	インフォームド・コンセント 医療放射線の安全使用について レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止および影響軽減を! 2021年グッドリカバリー賞 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、DVD配布		医師 21名 医療技術員 6名 事務職員 5名 看護助手 2名	医療安全について (採用日の業務開始前に安全管理マニュアルポケット版の内容に基づいたテスト問題の実施、新入職員オリエンテーションの DVD視聴)
医療安全e-Learning				(2021年5月~) 患者影響レベル分類、医療事故の報告、個人情報、災害発生時の対応、患者確認、身体抑制、生体監視モニター、コンセントの色分け、COVID-19関係、インフォームドコンセント、臨床倫理、医薬品、医療機器、高難度・未承認・適応外、病理・放射線レポート、輸血、急変時対応 (2021年10月~) RRS、緊急蘇生チーム、急変時対応、安全管理指針、安全管理体制、安全文化、ヒヤリハット・アクシデント報告、患者影響レベル分類、患者影響レベル別対応、重大アクシデント発生時の対応、FAX誤送信防止、COVID-19関係、 (2022年1月~) 安全文化の醸成、患者影響レベル分類、医療安全情報、死亡診断書・死体検案書、医療事故調査制度、急変時対応、薬急時口頭指示、虐待対応、転倒・転落、院内暴力対応、薬剤

診療録等の記載内容の確認及び指導の主な内容(2022年度)

診療録の記載内容の確認

(1) 量的点検

①退院時点検

点検実施者:診療情報管理士

点検方法 :該当月退院分全件をチェックリストに沿って点検する(毎月)

②リアルタイム点検

点検実施者:診療情報管理士

点検項目 :全科統一手術室手術記録

点検方法 : 手術室を利用した手術記録全件に対し量的点検を実施、未作成や不備につい

て診療科に督促を実施(毎週)

(2) 質的点検

①診療情報管理部による点検

点検実施者:診療録管理責任者・診療情報管理士

点検方法 : 全診療科(内科・外科はチームごと)患者1名(全26件)を選びチェック

リストに沿って点検を行う(隔月)

②医師・他医療職による点検

点検実施者:病棟医長・グループ長等診療科の代表医師・診療録管理責任者

看護部・薬剤部・中央検査部・中央放射線部・栄養部・リハビリテーション

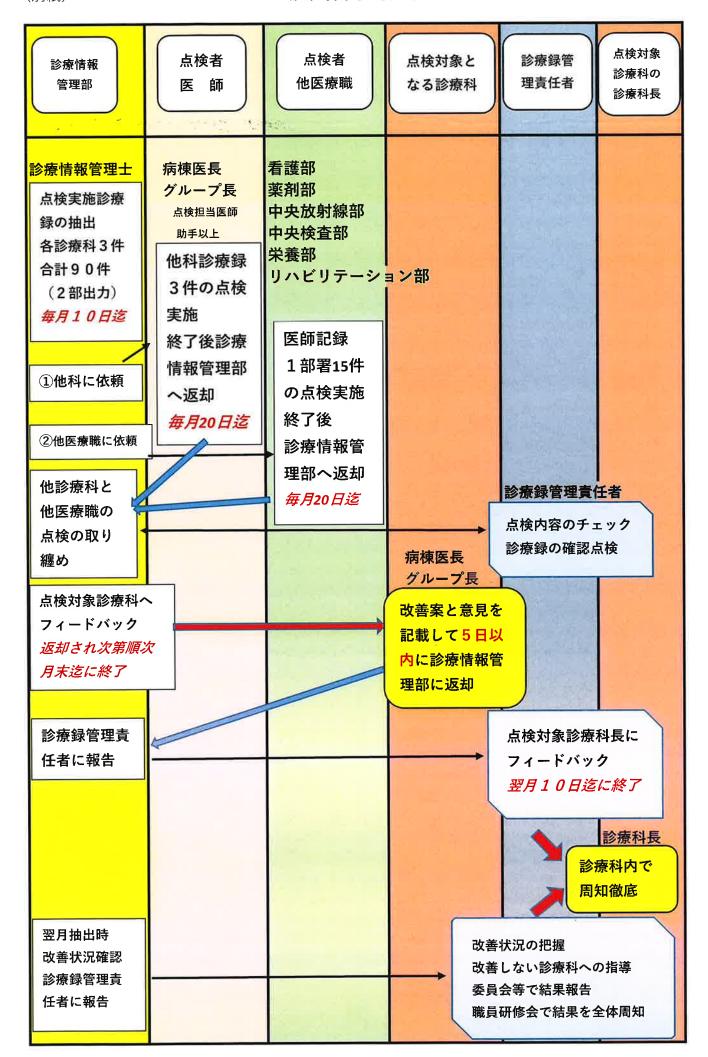
部

点検方法 :別紙「診療録質的点検手順」のとおり

主な指導内容

- ・入院時記載は決められたフォームで記載するよう指導。
- ・手術等の説明時には承認済みの説明書を使用し、インフォームドコンセント記録は 決められたテンプレートを使用するよう指導。
- ・診療の都度記載するように指導。
- ・SOAP 形式での記載を指導。
- ・英語の記載について、日本語の使用を指導。
- ・研修医に対する指導医記録について退院後コメントを記載するように指導。
- ・コピー&ペーストが多すぎる記録について指導。
- ・傷病名の整理ができていない診療録について指導。

次回点検時までに改善を求めた。



(11) 患者からの相談に適切に応じる体制の確保

①患者相談窓口の設置状況

○設置年月日 平成15(2003)年4月1日

○窓口名称

患者相談室

○相談日及び相談時間帯

診療時間内

月曜~金曜日 9:00~17:00

土曜日 9:00~12:30

○対応職種

事務職員 4名

社会福祉士 1名

○活動状況等

②窓口の活動に関する患者等への明示

病院正面玄関インフォメーションンボード、各科外来電子掲示板に「活動の趣旨・対応時間・担当責任者名・設置場所案内図」、相談室入口及びカウンター内に「活動の趣旨・対応時間・担当責任者名」を掲示している。また、入院のご案内、病院ホームページにも掲載している。

③規約の整備状況

2003年4月1日施行する

2009年5月1日改定施行する

2011年4月1日改定施行する

2013年4月1日改定施行する

2014年9月3日改訂施行する

2016年7月6日改訂施行する

2018年4月1日改定施行する

2019年6月1日改定施行する

④相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮

・患者等の不安を払拭するためには、

相談者にお話をお伺いした際に対応方法についてのご意向を伺い、匿名を希望される場合はその希望に従うことをお伝えしている。また、お名前を明らかにしていただく場合も、相談したことにより不利益を被ることがないことを説明差し上げるなど心理的な不安等が残らないように対応している。

・職員の認識

患者本人や家族等からのご意見等については所属長を通じ各職員に対して真摯に受け止め対応するよう指導している。また、毎月行われるリスクマネージャー会議及び安全管理委員会を

はじめ病院研修会等機会ある毎に職員指導を行っている。

- ⑤電話、ご意見箱、インターネット相談の実施など相談窓口以外の相談の受付方法
 - ・電話相談あり
 - ・ご意見箱の設置あり(21ヶ所)
 - インターネットの相談なし

⑥苦情、相談内容の共有

相談者からお伺いした苦情等を相談報告書にまとめ、該当部署の所属長及びリスクマネージャー、病院長宛に速やかに報告している。病院長宛の報告書は安全管理部、総務課長、事務長、安全管理担当副院長補佐、診療担当副院長、安全管理担当副院長を経て病院長に届けられる。該当部署については、所属長宛てに報告すると同時にリスクマネージャーを通じ該当職員に報告し、早急に対応を図るよう努めている。

各部署は、対応が済み次第その対応方法及び結果等を相談室経由で院長宛に報告し、相談内容によっては、該当部署から安全管理部会での検討が依頼されその指示に従い対応している。

⑦患者等へのセカンドオピニオン選択肢の推進 有 及び受入 有

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容
- 1. 医師免許を有している者
- 2. 医療安全管理業務の経験や、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有し、医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者
- 3. 当院または当院以外の病院での組織管理経験、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有している者
- 4. 帝京大学の建学の精神を深く理解し、当院の理念である「患者そして家族と共にあゆむ医療」を確実に実践できる者
- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無(句・無)
- 公表の方法 病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無

分・無

- ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無(句・無)
- ・選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無(**)・無)
- ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (句・無)
- ・ 公表の方法

病院ホームページ

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (〇を付す)	選定理由	特別の関 係
別紙 14 参照				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の 設置及び運営状況

合議体の設置の有無

金・無

- ・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の病院の運営等
- ・審議の概要の従業者への周知状況 臨床科長会議等を通じてすべての部署へ説明している。
- ・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有・)
- ・公表の方法
- ・外部有識者からの意見聴取の有無(有・)

合議体の委員名簿

氏名 委員長 (○を付す) 職種 役職 沖永寛子 医師 常務理事 坂本哲也 ○ 医師 病院長 河野博隆 医師 診療担当副院長 澤村成史 医師 総務担当副院長 山本貴嗣 医師 診療担当副院長補佐 佐野圭二 医師 安全管理担当副院長補佐 上妻 謙 医師 総務担当副院長補佐 多田弥生 医師 総務担当副院長補佐 土谷明子 看護師 看護部長 変別伸浩 薬剤師長・医薬品安全管理担当責任者 内山喜代志 放射線技師 中央放射線部技師長 和久正志 事務職員 事務長 稲垣宏治 事務職員 医事課長 川村雅文〈オブザーバー〉 医師 医学部長 村松直樹〈オブザーバー〉 事務職員 企画・管理局長				
中永寛子 医師 常務理事 坂本哲也 医師 病院長 河野博隆 医師 診療担当副院長 澤村成史 医師 総務担当副院長 山本貴嗣 医師 診療担当副院長補佐 佐野圭二 医師 安全管理担当副院長補佐 上妻 謙 医師 総務担当副院長補佐 多田弥生 医師 総務担当副院長補佐 土谷明子 看護師 看護部長 安野伸浩 薬剤師 薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者 内山喜代志 放射線技師 中央放射線部技師長 和久正志 事務職員 事務長 稲垣宏治 事務職員 医事課長 小久保真 事務職員 医事課長 川村雅文〈オブザーバー〉 医師 医学部長	氏名		職種	役職
坂本哲也 ○ 医師 病院長 河野博隆 医師 診療担当副院長 澤村成史 医師 総務担当副院長 山本貴嗣 医師 診療担当副院長補佐 佐野圭二 医師 安全管理担当副院長補佐 上妻 謙 医師 総務担当副院長補佐 多田弥生 医師 総務担当副院長補佐 土谷明子 看護師 看護部長 安野伸浩 薬剤師 薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者 内山喜代志 放射線技師 中央放射線部技師長和久正志 和久正志 事務職員 事務長 稲垣宏治 事務職員 医事課長 小久保真 事務職員 医学部長		(〇を付す)		
河野博隆 医師 診療担当副院長 選村成史 医師 総務担当副院長 山本貴嗣 医師 総務担当副院長補佐 佐野圭二 医師 安全管理担当副院長補佐・医療機器安全管理担当責任者 多田弥生 医師 総務担当副院長補佐・医療機器安全管理担当責任者 女野伸浩 薬剤師 薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者 内山喜代志 放射線技師 中央放射線部技師長事務長 和久正志 事務職員 総務課長 小久保真 事務職員 医事課長 川村雅文〈オブザーバー〉 医師 医学部長	冲永寛子		医師	常務理事
澤村成史医師安全管理担当副院長山本貴嗣医師総務担当副院長補佐佐野圭二医師安全管理担当副院長補佐上妻 謙医師安全管理担当副院長補佐・医療機器安全管理担当責任者多田弥生医師総務担当副院長補佐土谷明子看護師看護部長安野伸浩薬剤師薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	坂本哲也	0	医師	病院長
山本貴嗣医師総務担当副院長佐野圭二医師家療担当副院長補佐上妻 謙医師安全管理担当副院長女田弥生医師総務担当副院長補佐土谷明子看護師看護部長安野伸浩薬剤師薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	河野博隆		医師	診療担当副院長
佐野圭二医師診療担当副院長補佐上妻 謙医師安全管理担当副院長 補佐・医療機器安全管 理担当責任者多田弥生医師総務担当副院長補佐土谷明子看護師看護部長安野伸浩薬剤師薬剤部長・医薬品安全 管理担当責任者内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	澤村成史		医師	安全管理担当副院長
上妻 謙医師安全管理担当副院長 補佐・医療機器安全管理担当責任者多田弥生医師総務担当副院長補佐土谷明子看護師看護部長安野伸浩薬剤師薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	山本貴嗣		医師	総務担当副院長
本体・医療機器安全管理担当責任者多田弥生医師総務担当副院長補佐土谷明子看護師看護部長安野伸浩薬剤師薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	佐野圭二		医師	診療担当副院長補佐
夕田弥生医師総務担当副院長補佐上谷明子看護師看護部長安野伸浩薬剤師薬剤部長・医薬品安全 管理担当責任者内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	上妻 謙		医師	安全管理担当副院長
多田弥生医師総務担当副院長補佐土谷明子看護師看護部長安野伸浩薬剤師薬剤部長・医薬品安全 管理担当責任者内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長				補佐・医療機器安全管
土谷明子看護師看護部長安野伸浩薬剤師薬剤部長・医薬品安全 管理担当責任者内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長				理担当責任者
安野伸浩薬剤師薬剤部長・医薬品安全 管理担当責任者内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	多田弥生		医師	総務担当副院長補佐
内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	土谷明子		看護師	看護部長
内山喜代志放射線技師中央放射線部技師長和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	安野伸浩		薬剤師	薬剤部長・医薬品安全
和久正志事務職員事務長稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長				管理担当責任者
稲垣宏治事務職員総務課長小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	内山喜代志		放射線技師	中央放射線部技師長
小久保真事務職員医事課長川村雅文〈オブザーバー〉医師医学部長	和久正志		事務職員	事務長
川村雅文〈オブザーバー〉 医師 医学部長	稲垣宏治		事務職員	総務課長
	小久保真		事務職員	医事課長
村松直樹〈オブザーバー〉 事務職員 企画・管理局長	川村雅文〈オブザーバー〉		医師	医学部長
	村松直樹〈オブザーバー〉		事務職員	企画・管理局長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有・毎)
- 公表の方法
- ・ 規程の主な内容

別紙 15 参照 (帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則)

- 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割 別紙 15 参照 (帝京大学医学部附属病院 病院長·副院長業務細則)
- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

 - ・院内研修として、マネジメントに関する職員研修会を計画的に実施している。 ・外部研修にも積極的に参加している(特定機能病院管理者研修、医療安全管理者養成講習会な ど)。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する 状況

監査委員会の設置状況

御・無

- ・監査委員会の開催状況:年2回
- ・活動の主な内容:

管理者をはじめとして、医療安全管理責任者、安全管理部長、安全管理委員会委員長、医薬品安全 管理責任者、医療機器安全管理責任者、インフォームドコンセント管理責任者、診療録管理責任者 がそれぞれの職務の実績について委員に報告する。また、委員は現場を巡視し、自ら確認を行う。 委員長は監査結果をまとめ改善すべき点があれば、開設者および管理者に対し、是正措置を講ずる よう意見を表明する。

- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無(句・無)
- ・委員名簿の公表の有無 (句・無)
- ・委員の選定理由の公表の有無 (句・無)
- ・監査委員会に係る内部規程の公表の有無(有・)
- 公表の方法:

病院ホームページに公表

監査委員会の委員名簿及び選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (〇を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 壽夫	東京都医師国保組合議員 脳神経内科医師	0	・医療に係る安全管理 に関する識見を有する 者 ・脳神経内科医師とし て医療に造詣が深いた め	有・無	1
秦 奈峰子	太田・佐藤法律 事務所 弁護士・医師		・医療に係る安全管理 及び法律に関する識見 を有する者 ・医師と弁護士の資格 を持ち医療と法律双方 を理解されているため	有・無	1
橋本 惠正	当院の患者代表		・医療を受ける者その 他の医療従事者以外の 者 ・当院に通院歴のある 患者を代表して	有・無	2

川村雅文	帝京大学医学部 長	・当院での臨床経験が ある中立的な評価がで きる立場にある者 ・医学部を統括する者 として	宿・無	3
			有・無	
			有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 - 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 - 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 - 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを 確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

法人本部内に内部監査室、企画・管理局を設置し、内部監査室が内部監査プロセスを通じモニタリングすると共に、企画・管理局長が病院運営会議にオブザーバー参加することで、定期的に病院運営状況を確認できるようにしている。

- ・ 専門部署の設置の有無 (句・無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (句・無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に 係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況別紙 16 参照
- ・ 会議体の実施状況(年 8 回)
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (有・)
- ・ 公表の方法

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称:

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (〇を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合 等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無(句・無)
- · 通報件数 (年 O 件)
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (つ・無)
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (句・無)
- ・周知の方法

電子カルテトップページからの閲覧、新入職員オリエンテーションでの通知、安全管理マニュアル 院内感染対策要綱ポケット版を全職員に配布

帝京大学医学部附属病院 病院長選考委員会委員名簿

委 員	氏 名	現職	経歴	選定理由等
委員長	冲永 寛子	常務理事	帝京大学医師会長、 副学長を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、 帝京大学理事会を代表する者とし て委員に選出。 理事長が委員長に指名。
学内委員	川村 雅文	医学部長	外科主任教授、副院長 を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、 医学部を統括する者として委員に 選出。
"	内山 喜代志	中央放射線部課長	副技師長、技師長補佐 を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、 メディカルスタッフを代表する者 として委員に選出。
学外委員	寺尾 壽夫	東京都医師国保組合議員	特別養護老人ホーム寿 栄園施設長、千代田区 嘱託医を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、 帝京大学医学部附属病院監査委員 会委員長として学外委員に選出。
"	髙野 正敏	社会福祉法人 あしたば中野学園 学園長	千葉市地域自立支援協 議会会長、千葉市社会 福祉協議会理事を経て 現職	「病院長選考規程」に基づき、 社会福祉関係の豊富な経験を有す る者として学外委員に選出。
"	斉木 進	社会福祉法人寿永会 相模湖みどりの丘 副施設長	山梨中央銀行支店長、 営業推進室長を経て 現職	「病院長選考規程」に基づき、 企業のマネジメントに豊富な経験 を有する者として学外委員に選 出。

帝京大学医学部附属病院 病院長 副院長業務細則

(目的)

第1条 この細則は、帝京大学医学部附属病院(以下、「当院」という。)における医療提供 の責任者である病院長が当院の管理運営に必要な指導力を発揮して医療安全等を確 保するために、病院長が有する権限を明確化することを目的とする。また、病院長を サポートする副院長等の役割を明確化し、当院医療体制の質の向上に寄与することを 目的とする。

(病院長の役割)

- 第2条 病院長は、理事長から権限移譲を受け、以下の職務を執り行う。
 - (1) 安全管理部、感染制御部など、院内最重要部門を直属の組織として管理する。
 - (2) 副院長、副院長補佐を統括して病院運営を行う。
 - (3) 病院内各種委員会の委員長を任命する。
 - (4) 医学部准教授以上の臨床系教員の採用・昇任等に、病院長の立場で審議に加わる。
 - (5) 病院の管理運営責任者として、医療機器購入の必要性や機器選定の検討を行う。

(副院長の役割)

- 第3条 副院長は、帝京大学医学部附属病院規程に基づき、以下の職務を執り行う。
 - (1) 病院長の業務を補佐する。
 - (2) 診療部門、安全管理部門、総務部門の3部門を分掌する。
 - (3) 診療部門の担当副院長は、患者診療と患者支援を担当する。
 - (4) 安全管理部門の担当副院長は、医療安全、倫理および施設設備管理を担当する。
 - (5) 総務部門の担当副院長は、職員管理、教育研修および情報管理を担当する。
 - (6) 病院長および副院長補佐と分担し、病院内の各種委員会を統括する。
 - (7) 副院長補佐と分担し、関連する診療科ごとに安全管理業務を担当する。

(副院長補佐の役割)

- 第4条 副院長補佐は、帝京大学医学部附属病院規程に基づき、以下の職務を執り行う。
 - (1) それぞれの担当副院長の業務を補佐する。
 - (2) 病院長および3名の副院長と分担し、病院内の各種委員会を統括する。
 - (3) 副院長と分担し、関連する診療科ごとに安全管理業務を担当する。

(病院長、副院長の職務代行)

第5条 副院長は病院長が不在に当たってはその業務を代行する。 副院長補佐は副院長が不在に当たってはその業務を代行する。

(副院長・副院長補佐の選任)

第6条 副院長、副院長補佐は理事長が必要と認めたとき、病院長と協議して理事長が選 任する。

(雑則)

第7条 この細則の改廃は、理事長の承認をもって決定する。

(附則)

この細則は、2018年8月15日から施行する。

この細則は、2022年4月1日から施行する。

【改訂履歴】

改訂日付	改訂箇所	改訂内容	改訂者
2022/4/1	第5条。第	新規追加	事務長
	6条		

学校法人 帝京大学寄附行為

第一章 総 則

(名 称)

第 一 条 この法人は、学校法人帝京大学と称する。

(事務所)

第二条 この法人は、事務所を東京都板橋区加賀二丁目11番1号に置く。

第二章 目的及び設置する学校

(目 的)

第 三 条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、私立学校を設置し、建学の 精神に基づいた教育を行い、有為な人材を育成することを目的とする。

(設置する学校)

第四条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

一 帝京大学 大学院 医学研究科 文学研究科 薬学研究科 経

済学研究科 法学研究科 理工学研究科 理工学研究科 (通信教育課程) 医療技術 学研究科 教職研究科 公衆衛生学研究科 外国語研究科 保健学研究科 総合データ

応用プログラム

文学部 日本文化学科 史学科 社会学科 心理学

科

外国語学部 外国語学科 国際日本学科

教育学部 教育文化学科 初等教育学科

経済学部 経済学科 経営学科 観光経営学科 地域

経済学科 国際経済学科

法学部 法律学科 政治学科

 医学部
 医学科

 薬学部
 薬学科

理工学部 機械・精密システム工学科 航空宇宙工学

科 情報電子工学科 バイオサイエンス学

科 情報科学科通信教育課程

医療技術学部 視能矯正学科 看護学科 診療放射線学科

臨床検査学科 スポーツ医療学科 柔道整

復学科

福岡医療技術学部 理学療法学科 作業療法学科 看護学科

診療放射線学科 医療技術学科

二 帝京大学短期大学 人間文化学科 現代ビジネス学科

三 帝京大学高等学校 普通科(全日制課程)

- 四 帝京大学可児高等学校 普通科 (全日制課程)
- 五 帝京第三高等学校 普通科 (全日制課程)
- 六 帝京大学中学校
- 七 帝京大学可児中学校
- 八 帝京大学小学校
- 九 帝京大学可児小学校
- 一〇 帝京幼稚園
- 一一 帝京大学幼稚園
- 一二 帝京高等看護学院(医療専門課程)
- 一三 帝京山梨看護専門学校(医療専門課程)

第三章 役員及び理事会

(役 員)

第 五 条 この法人に、次の役員を置く。

- 一 理事 七人
- 二 監事 二人
- 2 理事のうち一人を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときは、理事総数の三分の二以上の議決を要する。
- 3 理事(理事長を除く。)のうち一人を常務理事とし、理事総数の過半数の議決 により選任する。常務理事の職を解任するときは、理事総数の三分の二以上 の議決を要する。

(理事の選任)

- 第 六 条 理事は、次の各号に掲げる者とする。
 - 一 帝京大学の学長
 - 二 帝京大学の副学長、学部長、短期大学の学長のうちから理事会において選任 した者 二人
 - 三 評議員のうちから評議員会において選任した者 三人
 - 四 学識経験者のうちから理事会において選任した者 一人
 - 2 前項第一号から第三号までの理事は、学長、副学長、学部長、短期大学の学 長又は評議員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

(監事の選任及び職務)

- 第 七 条 監事は、この法人の理事、職員(学長(校長)、教員その他の職員を含む。以下同じ。)、評議員又は役員の配偶者若しくは三親等以内の親族以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。
 - 2 前項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に 防止することができる者を選任するものとする。
 - 3 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。
 - 一 この法人の業務を監査すること

- 二 この法人の財産の状況を監査すること
- 三 この法人の理事の業務執行の状況を監査すること
- 四 この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、毎 会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後二月以内に理事会及び 評議員会に提出すること
- 五 第一号から第三号までの規定による監査の結果、この法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、 又は理事会及び評議員会に報告すること
- 六 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して理事会及び評議 員会の招集を請求すること
- 七 この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、理 事会に出席して意見を述べること
- 4 前項第六号の請求があった日から五日以内に、その請求があった日から二週 間以内の日を理事会又は評議員会の日とする理事会又は評議員会の招集の通 知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会又は評議員会を 招集することができる。
- 5 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくは寄附行為 に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、 当該行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該 理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

(役員の任期)

- 第 八 条 役員(第六条第1項第一号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。) の任期は、四年とする。ただし、補欠の役員の任期は、前任者の残任期間と する。
 - 2 役員は、再任されることができる。
 - 3 役員は、任期満了のあとでも後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務(理事長又は常務理事にあっては、その職務を含む。)を行う。

(役員の補充)

第 九 条 理事又は監事のうち、その定数の五分の一をこえる者が欠けたときは、一月 以内に補充しなければならない。

(役員の解任及び退任)

- 第 十 条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の四分の三以上出 席した理事会において、理事総数の四分の三以上の議決及び評議員会におい て評議員総数の三分の二以上の議決により、これを解任することができる。
 - 一 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき
 - 二 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
 - 三 職務上の義務に著しく違反したとき
 - 四 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき

- 2 役員は次の事由によって退任する。
 - ー 任期の満了
 - 二辞任
 - 三 死亡
 - 四 私立学校法第三十八条第8項第一号又は第二号に掲げる事由に該当するに 至ったとき

(理事会)

- 第十一条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。
 - 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の遂行を監督する。
 - 3 理事会は、理事長が招集する。
 - 4 理事長は、理事総数の三分の二以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から七日以内に、これを招集しなければならない。
 - 5 理事会を招集するには、各理事及び監事に対して、会議開催の場所及び日時 並びに会議に付議すべき事項を書面又は電磁的方法により通知しなければな らない。
 - 6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を 要する場合はこの限りでない。
 - 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。
 - 8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全 員が連名で理事会を招集することができる。
 - 9 第七条第4項及び前項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会 の議長は、出席理事の互選によって定める。
 - 10 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第13項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りでない。
 - 11 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面又は電磁的方法をもって、あらかじめ意思表示をした者は、出席者とみなす。
 - 12 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めのある場合を除くほか、 出席理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 13 理事会の決議について直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(業務の決定の委任)

第十二条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項 その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であって、あらかじめ理 事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任す ることができる。

(理事長及び常務理事の職務)

- 第十三条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。
 - 2 常務理事は、理事長の業務を補佐し、この法人の全ての業務について代表する。

(理事の代表権の制限)

第十四条 理事長及び常務理事以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長職務の代理等)

第十五条 理事長に事故あるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会にお いて指名された理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

(議事録)

- 第十六条 議長は、理事会の開催の場所(当該場所に存しない役員が理事会に出席をした場合における当該出席の方法を含む。)及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。
 - 2 議事録には、出席理事及び監事が署名(電磁的記録により作成される議事録 にあっては、電子署名。以下同じ。)若しくは記名押印し、又は議長並びに出 席理事のうちから互選された理事二人以上及び出席監事が署名し、常にこれ を事務所に備えて置かなければならない。
 - 3 利益相反取引に関する承認の決議については、理事それぞれの意思を議事録 に記載しなければならない。

第四章 評議員会及び評議員

(評議員会)

第十七条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、十五人の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の三分の一以上の評議員から会議に付議すべき事項を 示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十 日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員及び監事に対して、会議開催の場所及び 日時並びに会議に付議すべき事項を、書面又は電磁的方法により通知しなけ ればならない。
- 6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を 要する場合は、この限りでない。
- 7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任す る。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決 することができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達 しないときは、この限りではない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面又は電磁的方法

- をもって、あらかじめ意思表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、 出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 前項の場合において、議長は、評議員として議決に加わることができない。
- 12 評議員会の決議について直接の利害関係を有する評議員は、その議事の議決 に加わることができない。

(議事録)

- 第十八条 第十六条第1項の規定は、評議員会の議事録の作成について準用する。
 - 2 議事録には、出席評議員及び監事が署名若しくは記名押印し、又は議長並び に出席評議員のうちから互選された評議員二人以上及び出席監事が署名し、 常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

(諮問事項)

- 第十九条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の 意見を聴かなければならない。
 - 一 予算及び事業計画
 - 二 事業に関する中期的な計画
 - 三 借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)及び 基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
 - 四 役員に対する報酬等(報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産 上の利益及び退職手当をいう。以下同じ。)の支給の基準
 - 五 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
 - 六 寄附行為の変更
 - 七 合併
 - 八 目的たる事業の成功の不能による解散
 - 九 寄附金品の募集に関する事項
- 十 その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と**認**めるもの (評議員会の意見具申等)
- 第二十条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況 について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員か ら報告を徴することができる。

(評議員の選任)

- 第二十一条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。
 - この法人の職員(この法人の設置する学校の教員及び事務職員を含む。)で 理事会において推せんされた者のうちから、評議員会において選任した者 五人
 - 二 この法人の設置する学校を卒業した者で年齢二十五年以上のもののうちから、理事会において選任した者 一人
 - 三 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 四人

- 四 この法人に功労ありたる者のうちから、理事会において選任した者 五人
- 2 前項第一号に規定する評議員は、この法人の職員の地位を退いたときは評議 員の職を失うものとする。

(任期)

- 第二十二条 評議員の任期は、四年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残 任期間とする。
 - 2 評議員は、再任されることができる。
 - 3 評議員は、任期満了の後でも後任の評議員が選任されるまでは、なお、その 職務を行う。

(評議員の解任及び退任)

- 第二十三条 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員総数の三分の二以 上の議決により、これを解任することができる。
 - 一 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
 - 二 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき
 - 2 評議員は次の事由によって退任する。
 - 一 任期の満了
 - 二辞任
 - 三 死亡

第五章 資産及び会計

(資 産)

第二十四条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

- 第二十五条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産とする。
 - 2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入される財産とする。
 - 3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中 運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入される財産とする。
 - 4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本 財産又は運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第二十六条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上 やむを得ない理由のあるときには、理事会において理事総数の三分の二以上 の議決を得て、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第二十七条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な 信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金 として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第二十八条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中 の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入 その他の運用財産をもって支弁する。

(会 計)

第二十九条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

(予算、事業計画及び事業に関する中期的な計画)

- 第三十条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理 事会において出席理事の三分の二以上の議決を得なければならない。これに 重要な変更を加えようとするときも、同様とする。
 - 2 この法人の事業に関する中期的な計画は、五年以上十年以内において理事会で定める期間ごとに、理事長が編成し、理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第三十一条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において出席理事の三分の二以上の議決がなければならない。借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)についても、同様とする。

(決算及び実績の報告)

- 第三十二条 この法人の決算は、毎会計年度終了後二月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。
 - 2 理事長は、毎会計年度終了後二月以内に、決算及び事業の実績を評議員会に 報告し、その意見を求めなければならない。

(財産目録等の備付け及び閲覧)

- 第三十三条 この法人は、毎会計年度終了後二月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿(理事、監事及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいう。)を作成しなければならない。
 - 2 この法人は、前項の書類、監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準及 び寄附行為を事務所に備えて置き、請求があった場合には、正当な理由があ る場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。
 - 3 前項の規定にかかわらず、この法人は、役員等名簿について同項の請求があった場合には、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除外して、同項の閲覧をさせることができる。

(情報の公表)

- 第三十四条 この法人は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、遅滞なく、インターネットの利用により、当該各号に定める事項を公表しなければならない。
 - 一 寄附行為若しくは寄附行為変更の認可を受けたとき、又は寄附行為変更の届 出をしたとき 寄附行為の内容
 - 二 監査報告書を作成したとき 当該監査報告書の内容
 - 三 財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿(個人の住所に係る記載の部分を除く。)を作成したとき これらの書類の内容
 - 四 役員に対する報酬等の支給の基準を定めたとき 当該報酬等の支給の基準 (役員の報酬)

第三十五条 役員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等 として支給することができる。

(資産総額の変更登記)

第三十六条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後 三月以内に登記しなければならない。

(会計年度)

第三十七条 この法人の会計年度は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わるものとする。

第六章 解散及び合併

(解 散)

- 第三十八条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。
 - 一 理事会における理事総数の三分の二以上の議決及び評議員会の議決
 - 二 この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席 理事の三分の二以上の議決
 - 三 合併
 - 四 破産
 - 五 文部科学大臣の解散命令
 - 2 前項第一号に掲げる事由による解散にあっては文部科学大臣の認可を、同項 第二号に掲げる事由による解散にあっては文部科学大臣の認定を受けなけれ ばならない。

(残余財産の帰属者)

第三十九条 この法人が解散した場合(合併又は破産によって解散した場合を除く。)における残余財産は、解散のときにおける理事会において出席理事の三分の二以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益社団法人若しくは公益財団法人に帰属する。

(合 併)

第四十条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第七章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

- 第四十一条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において理事総数の三分の 二以上の議決を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。
 - 2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、 理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得て、文部科学大臣に届け 出なければならない。

第八章 補 則

(責任の免除)

第四十二条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

(責任限定契約)

第四十三条 理事 (理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。)又は監事(以下この条において「非業務執行理事等」という。)が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金一百万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

(書類及び帳簿の備付け)

- 第四十四条 この法人は、第三十三条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に事務所に備えて置かなければならない。
 - 一 役員及び評議員の履歴書
 - 二 収入及び支出に関する帳簿及び証ひよう書類
 - 三 その他必要な書類及び帳簿

(公告の方法)

第四十五条 この法人の公告は、学校法人帝京大学の掲示場に掲示して行う。 (施行細則) 第四十六条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する 学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

- 一、この寄附行為は昭和二十六年三月三十日から施行する。
- 二、この法人の設立当初の役員は次のとおりとする。

理事	(理事長)	冲	永	荘 兵	衛
理	事	冲	永	荘	-
理	事	尾	中	勝	也
理	事	藤	原	澄	雄
理	事	忠	石	弘	治
監	事	三	宅	正太	郎
監	事	三	宅	清	子

附 則

この寄附行為は昭和三十四年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十六年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十七年二月八日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十八年三月十四日から施行する。

附則

この寄附行為は昭和四十年三月二十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十一年一月二十五日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十二年二月七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十二年三月七日から施行する。

附則

この寄附行為は昭和四十五年三月から施行する。

附則

この寄附行為は昭和四十六年三月三十一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十八年三月二十八日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十二年一月十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十二年三月三十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十四年三月三十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十六年三月二十六日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十七年三月十七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十八年三月七日から施行する。

附則

この寄附行為は昭和五十八年三月二十四日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十八年十二月二十二日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十九年三月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十年十二月二十五日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十二年二月三日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十二年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十二年十二月二十三日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十三年一月十三日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十三年十二月二十二日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成元年三月十三日から施行する。

附則

この寄附行為は平成六年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成九年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成十年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成十一年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成十二年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十三年四月一日から施行する。

(帝京大学福岡短期大学の経営情報学科の存続に関する経過措置)

帝京大学福岡短期大学の経営情報学科は、改正後の寄附行為第四条第三号の規定 にかかわらず平成十三年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在 学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十六年三月五日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十六年三月十三日から施行する。

附 則

平成十五年十一月二十七日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則

平成十六年十二月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十七年四月 一日から施行する。

附 則

平成十七年三月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

(帝京大学文学部日本アジア言語文化学科の存続に関する経過措置)

帝京大学文学部日本アジア言語文化学科は、改正後の寄附行為第四条第一号の規定にかかわらず平成十七年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、理事会承認の日(平成十七年十二月四日)から施行する。

附則

- 一、この寄附行為は文部科学大臣の認可を受けた日(平成十八年三月十日)から 施行する。
- 二、この寄附行為による改正後の役員の任期及び評議員の任期の規定は、この寄 附行為改正後新たに選任された役員及び評議員から適用し、この寄附行為改 正前からの役員及び評議員については、なお従前の例による。

附 則

平成十八年一月三十一日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十八年四月一

日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十八年四月一日から施行する。

(帝京大学経済学部環境ビジネス学科の存続に関する経過措置)

帝京大学経済学部環境ビジネス学科は、改正後の寄附行為第四条の規定にかかわらず平成十八年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

(帝京大学短期大学国際コミュニケーション学科、情報ビジネス学科の存続に関する経過措置)

帝京大学短期大学国際コミュニケーション学科、情報ビジネス学科は、改正後の 寄附行為第四条の規定にかかわらず平成十八年三月三十一日に当該学科に在学 する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成十八年六月十四日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成十八年十一月三十日)から施行する。

附 則

平成十八年十一月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十九年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十九年四月一日から施行する。

附則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成二十年三月二十一日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十年四月一日から施行する。

附則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成二十年十一月十四日)から施行する。

附 則

平成二十年十二月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十一年四月一日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十二年四月一日から施行する。

附 則

平成二十二年十月二十九日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十三年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十三年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十三年六月十八日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成二十三年十一月三十日)から施行する。

附 則

平成二十四年一月五日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十四年五月二十七日から施行する。

附 則

平成二十四年十一月二十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十五年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十五年十二月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十六年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十六年六月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十七年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成三十年一月二十四日)から施行する。

附則

この寄附行為は、平成三十年四月一日から施行する。

附則

この寄附行為は、平成三十年六月一日から施行する。

附 則

令和二(2020)年三月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、令和二(2020)年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、令和二(2020)年四月一日から施行する。

附 則

令和三(2021)年十一月五日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、令和四

(2022) 年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、令和四(2022)年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(令和四(2022)年六月二十九日)から施行する。

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類(任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無

金・無

- ・情報発信の方法、内容等の概要
- ○ホームページ・広報誌

各診療科の紹介や診療内容、特色、外来診療担当表等、患者に対し分かりやすく適切に表示している。

○地域住民や患者に向けた公開講座の実施

年によって異なるが、年間最高で6回実施をしており、社会的にも話題になっている生活習慣病や心臓疾患等、専門分野別にテーマを決め、各診療科の医師が病状や受診のタイミング等も分かりやすく説明している。

○その他

各診療科、看護部等で地域住民や患者に対し、市民公開講座や体験講座等を実施している。 (ナーシングフェスタ、がん情報サロン等)

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無

旬・無

- ・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要
- ○ER及び外傷センター

ERは1次から2次までの疾患患者に対応し、その内外傷患者は外傷センターの医師が対応している。また、同じフロアに3次救急に対応する救命救急センターが隣接しているので、救命救急センター・ER・外傷センターの連携も緊密になっている。

全診療科に支援体制があり、24時間体制で該当科にコンサルト可能である。

○循環器センター

循環器内科、心臓血管外科との連携・協力体制で行っている。カテーテルによる大動脈弁に対する人工弁の植え込みも可能であるが、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科によるハートチームを形成し更なる連携体制を整えている。

○静脈瘤センター

皮膚科・循環器内科・心臓血管外科との連携・協力体制で行っている。静脈瘤の有無や程度を 超音波で検査し、現状の評価と適切な治療の提案を行っている。

○スポーツ外傷・関節鏡センター

帝京大学スポーツ医科学センターとの連携や各関節の専門医・リハビリ医とも協力し、スポーツ活動の受傷前レベルへの早期復帰のため診療を行っている。

○周術期管理センター

外科系医師、看護師、麻酔科医師、コンサルト先診療科、歯科口腔外科、薬剤部、栄養部、リハビリテーション部、ME部、事務部、医療システム部などがそれぞれの専門分野を生かし、患者家族が周術期を乗り切るためのベストな環境を提供している。

○その他

集中治療部(GICU)や帝京がんセンター等も複数の診療科と連携体制がある。

上記以外の専門診療センター